

尾瀬国立公園利用アクションプランの進捗状況について

尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会

■ 尾瀬国立公園利用アクションプランについて

尾瀬国立公園利用アクションプラン（利用AP）

- ・ 尾瀬国立公園の魅力向上と質の高い利用の促進により、尾瀬ビジョンの実現に利用面から寄与する行動計画として策定
- ・ 進捗管理のための成果指標と、その向上のための取組プログラムによって構成

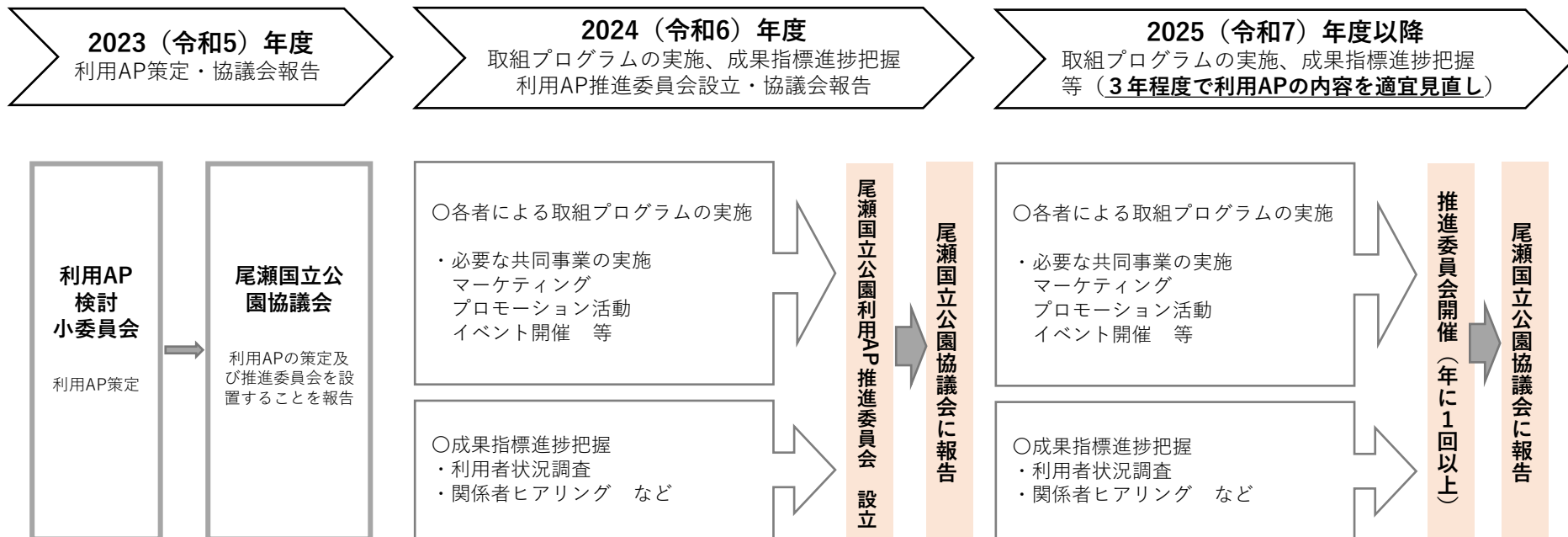
○これまでの取組過程と今後について

■2023（令和5）年度

- ・ 利用AP検討小委員会において利用APを策定。

■2024（令和6）年度以降の進捗管理体制

- ・ 尾瀬国立公園協議会から独立し、**尾瀬の利用促進を考える場として「尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会」**（事務局：関東地方環境事務所）を新規設置。
- ・ 目標達成に向けて、引き続き構成員が主体となって必要な事業・調査等を実施し、利用APの進捗管理を行う。



■ 尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会について

- ・ 利用アクションプラン検討小委員会の委員の大部分を引継いだ上で、新たに尾瀬で活動されている国立公園オフィシャルパートナー4者に参画いただいた。（（株）山と溪谷社、三条印刷（株）、奥只見観光（株）、（有）尾瀬小屋）
- ・ 有識者として引き続き、東京大学大学院農学生命科学研究科の山本清龍准教授にご助言いただいている。

尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会 設置要綱

（名称）

第1条 本会は、尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会（以下「委員会」という）と称する。

（目的）

第2条 委員会は、尾瀬国立公園の魅力向上と「保護と利用の好循環」の実現に向けた尾瀬国立公園利用アクションプラン（以下「AP」という）の進行管理を行うとともに、各主体による取組プログラムの情報共有・相互連携を図ることを目的とする。

（所掌事項）

第3条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- （1）APの進行管理に関すること。
- （2）その他前条の目的を達成するために必要な事項。

（構成）

第3条 委員会は、委員長及び委員をもって構成する。

2 委員長は、檜枝岐自然保護官事務所国立公園保護管理企画官の職にある者をもって充てる。

3 委員は、別表の職にある者をもって充てる。

（運営）

第5条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。
- 3 委員長は、必要に応じて委員会のもとにワーキンググループを設置することができる。

（議事等の公開）

第6条 委員会は非公開とする。配布資料及び議事要旨については、委員会にて委員の了承を得たうえで、関東地方環境事務所ホームページに公開する。

（事務局）

第7条 委員会の事務局は、関東地方環境事務所に置く。

附 則 この要綱は、令和7年1月21日から施行する。

尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会 委員

所属	役職
（委員長） 環境省 関東地方環境事務所 檜枝岐自然保護官事務所	国立公園保護管理企画官
福島県 生活環境部 環境共生総室 自然保護課	課長
群馬県 環境森林部 自然環境課	課長
新潟県 環境局 環境対策課	課長
檜枝岐村 観光課	課長
南会津町 館岩総合支所 振興課	課長
片品村 むらづくり観光課	課長
魚沼市 観光課	課長
南会津町 観光物産協会 館岩支部	事務局長
一般社団法人片品村観光協会	事務局長
一般社団法人魚沼市観光協会	事務局長
東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	所長
尾瀬山小屋組合	組合長
株式会社山と溪谷社 法人営業部	尾瀬担当
三条印刷株式会社	関東ブロック営業部統括部長
奥只見観光株式会社	取締役営業部長
有限会社尾瀬小屋	代表取締役社長
尾瀬ガイド協会	福島支部長
尾瀬ガイド協会	群馬支部長
尾瀬ガイド協会	新潟支部長
一般社団法人尾瀬登山道整備部	理事長
公益財団法人尾瀬保護財団	事務局長

■ 尾瀬国立公園利用アクションプランの概要

みんなに愛され続ける尾瀬

新・尾瀬ビジョン

利用者

いつ来ても楽しく誰もがわくわくできる

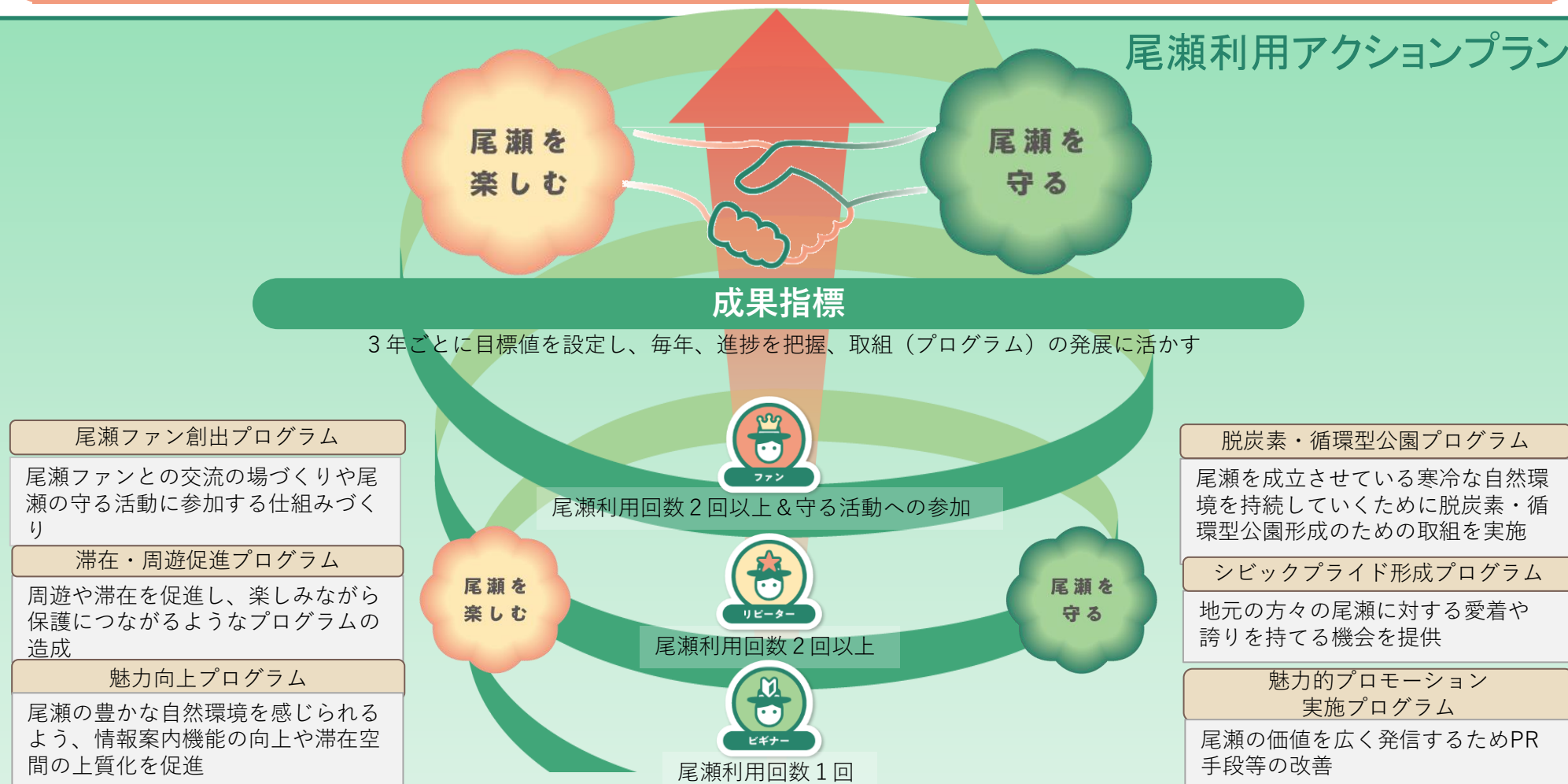
地域

地域の人々が誇りを持っていきいきできる

生きもの

尾瀬本来の生き物がありのままだに生きている

尾瀬利用アクションプラン



尾瀬ファンベース戦略

楽しむ活動と守る活動の相乗効果を図る利用アクションプランの実行戦略。

利用者を3つ（ビギナー、リピーター、ファン）に分け、各利用者層に応じた取組（プログラム）を整備・実施する。

尾瀬国立公園利用アクションプラン 成果指標

目標

みんなに愛され続ける尾瀬

主な成果指標

尾瀬を楽しむ

尾瀬関係の消費額

22年度 最大 9.3 億円
23年度 拡大推計 最大 16.2 億円
26年度 最大 23.4 億円 (目標)

尾瀬利用者の満足 7段階評価

22年度 6.27pt
23年度 6.12pt
26年度 6.45pt (目標)

尾瀬を守る

守る活動への参加率

22年度 参加率 —
23年度 利用状況調査アンケート 31.6% ※
26年度 36.6% (目標)

※「トイレチップの支払い」「ストックのキャップ着用」を含む全選択肢を対象とした守る活動の参加率は97.8%

来訪者数

22年度 +0.9万人 15.4万人
23年度 環境省 16.3万人
26年度 最大 20万人 (目標)

消費単価 (尾瀬内旅行消費)

22年度 +2,496円 7,989円
23年度 アンケート調査 10,485円
26年度 11,680円 (目標)

シカ対策 ボランティア参加者数

22年度 +56人 197人
23年度 253人
26年度 280人 (目標)

歩道維持 維持活動参加者数

22年度 +24人 0人
23年度 24人
26年度 200人 (目標)

外来種対策 ボランティア参加者数

22年度 -7人 26人
23年度 19人
26年度 63人 (目標)

トイレ 一人あたりの支払い額

22年度 -0.01円 49.14円
23年度 49.13円
26年度 63.00円 (目標)

宿泊数 (野営含む)

5万人 5.6万人 6.7万人 10,455円 14,087円 17,000円

日帰り数

10.4万人 10.7万人 13.3万人 3,941円 7,814円 9,000円

※R5 環境省・利用状況調査（アンケート）において保全活動への参加状況を集計。
守る活動への参加率は、「環境保全への寄付」「地域貢献型商品購入」「ごみ拾い」「ボランティア参加」「登山道整備」「外来植物除去」「トイレチップの支払い」「ストックのキャップ着用」のうち、「トイレチップの支払い」「ストックのキャップ着用」以外について参加した割合を示す。
なお、全選択肢を対象とした場合の参加率は97.8%であり、ほとんどの利用者はなんらかの形で守る活動に参加しているため、指標としては発展的に「トイレチップの支払い」「ストックのキャップ着用」を除外して設定。
※尾瀬を守る活動であるシカ対策、歩道維持、外来種対策、トイレは、新・尾瀬ビジョン「尾瀬を取り巻く自然的・社会的環境の主な変化」等より抽出。



ビギナー戦略

尾瀬を認知し、実際に訪問してくれる人を増やす



リピーター戦略

尾瀬ビギナーを再訪につなげる



ファン戦略

尾瀬を想う人を増やし、尾瀬の守り手に巻き込む

各取組の貢献評価

■ 成果指標の進捗状況について

※赤枠部分は利用AP P.47から計算方法を修正した部分

	指標	単位	把握・計算方法	2022	2023	2024	2025	2026
				実績	実績	目標 実績	目標	目標
①	尾瀬関係の消費額（推定）	円	②×③	9.4億	16.3億	18.9億 18.5億	21.2億	23.4億
②	来訪者数	人	登山者カウンター計測数	15.5万	16.3万	17.6万 15.6万	18.9万	20.0万
②-1	└ 宿泊	人	山小屋からの聞き取り	5.0万	5.6万	5.9万 5.7万	6.4万	6.7万
②-2	└ 日帰り	人	②-（②-1）	10.4万	10.7万	11.7万 9.9万	12.5万	13.3万
③	消費単価（尾瀬内旅行消費）	円	$\left(\frac{((②-1) \times (③-1) + (②-2) \times (③-2))}{②} \right)$	¥6,061	¥9,981	¥10,745 ¥11,890	¥11,238	¥11,680
③-1	└ 宿泊	円	利用者アンケートによる把握	¥10,455	¥14,087	¥15,000 ¥19,949	¥16,000	¥17,000
③-2	└ 日帰り	円	利用者アンケートによる把握	¥3,941	¥7,814	¥8,600 ¥7,296	¥8,800	¥9,000

- ✓ 来訪者数は昨年度と比較して減少しており、休日や連休に悪天候が多かったことが影響したと推測される。
- ✓ 来訪者数が減少する中で延べ宿泊者数は昨年度とほぼ同数を維持している。
- ✓ 昨年度と比較して消費単価は増加し、2026（R8）年の目標も達成している状況。

■ 成果指標の進捗状況について

※赤枠部分は利用AP P.47から数値を修正した部分

	指標	単位	把握・計算方法	2022	2023	2024	2025	2026
				実績	実績	目標 実績	目標	目標
④	守る活動への参加率	%	利用者アンケートによる把握	データなし	31.6%	33.3% 35.9%	35.0%	36.6%
⑤	シカ対策ボランティア参加者数	人	関係者からの聞き取り	197人	253人	260人 208人	270人	280人
⑥	歩道維持維持活動参加者数	人	関係者からの聞き取り	0人	24人	50人 8人	100人	200人
⑦	トイレ人あたりの支払い額	円	関係者からの聞き取り	47.37円	48.99円	53.00円 47.75円	58.00円	63.00円
⑧	外来種対策ボランティア参加者数	人	関係者からの聞き取り	26人	19人	40人 39人	50人	63人
⑨	尾瀬利用者の満足	pt	利用者アンケートによる把握	6.3pt	6.1pt	6.2pt 6.2pt	6.3pt	6.5pt

- ✓ 「守る活動への参加率」は今年度の目標を達成し、2025（令和7）年の数値目標も達成。
- ✓ シカ対策及び歩道維持活動の参加者数は昨年度と比較して減少した。
- ✓ トイレ人あたりの支払額についても昨年度と比較して減少した。
- ✓ 尾瀬利用者の満足度は昨年度と比較して上昇し、今年度の目標を達成した。

■ 成果指標の進捗状況について

※赤枠部分は利用AP P.47から計算方法を修正した部分

	指標	単位	把握・計算方法	2022	2023	2024	2025	2026
				実績	実績	目標 実績	目標	目標
⑩	自然保護の原点としての認知度	%	利用者アンケートによる把握	データなし	52.1%	54.0% 54.7%	56.0%	58.0%
⑪	ビギナー他ALL（＝来訪者数）	人	登山者カウンター計測数	15.5万	16.3万	17.6万 15.6万	18.9万	20.0万
⑫	リピーター（2回以上来ている）	人	⑪×⑬	11.0万	11.0万	11.8万 9.6万	12.4万	13.1万
⑬	リピート率	%	利用者アンケートによる把握	71.2%	67.3%	66.9% 61.8%	65.5%	65.5%
⑭	ファン	人	⑪×⑮	データなし	3.3万	3.9万 3.5万	4.3万	4.8万
⑮	ファン率	%	利用者アンケートによる把握	データなし	20.3%	22.3% 22.2%	22.9%	24.0%

- ✓ 自然保護の原点としての認知度は増加し、今年度の目標を達成した。
- ✓ リピート率が年々減少し、リピーター数も減少している状況である。
- ✓ いっぽうでファン率は増加し、ファン数も増加傾向にあるが今年度の目標は達成していない。

■ 成果指標の進捗状況について（まとめ）

I. 尾瀬利用者の満足

- ✓ 満足度は高い水準を維持しており、今後は 比較的満足度が低い項目（登山道・ベンチの整備や交通アクセス）のさらなる改善を図ることで目標の達成につなげていきたい。

II. 尾瀬を楽しむ

- ✓ 「消費単価（尾瀬内旅行消費）」の向上により「尾瀬関係の消費額」は順調に増加している。引き続き、来訪者がお金を使いたくなる高付加価値化や魅力的なコンテンツづくりを継続していくとともに、伸び悩んでいる「来訪者数」増加のために、インバウンドの誘致等も含む取組に力を入れていきたい。

III. 尾瀬を守る

- ✓ 「守る活動への参加率」は目標達成に向け順調に増加しているが、一方で一部の活動の参加者数等は減少しているため、具体的な活動の幅・選択肢を広げていきたい。

IV. 自然保護の原点としての認知度

- ✓ 「リピーター数」が減少（＝ビギナーが増加）する中で認知度は向上しており、引き続き尾瀬が日本の自然保護運動発祥の地であることを様々な機会を通して広めていきたい。

V. 尾瀬ファンベース戦略

- ✓ リピーターが減少しており、利用者数全体の増加のためにも、今後はビギナーのリピーター化のための取組に力を入れていきたい。

■ 取組プログラムの実施状況について（今年度実施された主な取組）

◎尾瀬フェアの実施（尾瀬保護財団） …ビギナー戦略

- ・ ビギナー登山者へ尾瀬の魅力をPRして新たな尾瀬ファンを獲得するため、2024年6月22～23日（土・日）にモリパークアウトドアヴィレッジ（東京都昭島市）でイベントを開催
- ・ 尾瀬に関係する各自治体、観光協会、企業等が出展し、2日間で2,400人が来場

◎ふくしま尾瀬魅力発信強化事業（福島県） …リピーター戦略

- ・ ふくしま尾瀬フォトコンテストを開催し、受賞作品を東武鉄道本線や東京メトロ相互乗り入れ車両の中吊りポスターとして掲出
- ・ 2024年2月1～2日（土・日）に池袋駅南口イベントステージにてふくしま尾瀬の魅力を発信するイベントを開催し、令和4～6年度に実施したふくしま尾瀬フォトコンテスト入賞作品を展示・放映

◎尾瀬登山道整備ツアー2024（群馬県） …ファン戦略

- ・ 保全と利用が持続的に循環する新たな仕組みを構築するため、旅行会社と連携して利用者参加型の登山道整備ツアーを造成
- ・ 8月から10月の3か月にわたり、県が管理する大清水から尾瀬沼にかけての登山道を対象に、オンラインや現地での講習を計8回実施

別紙 1：各取組プログラムの実施状況一覧

(1) 魅力向上プログラム

- ・ 本取組テーマでは、情報案内機能の向上、誘導標識・解説標識等の整備・更新、滞在空間の上質化、保全活動の強化の 4 区分で、計 12 の取組を実施します。

○情報案内機能の向上

- ・ 利用者が尾瀬で充実した時間を過ごし、尾瀬の魅力を享受できるように、尾瀬の魅力やアクセス、過ごし方等を学ぶために、既存の情報媒体の改訂や有効活用を図ります。

1. 尾瀬環境学習支援セルフガイドの活用					継続
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団		連携先	—
目的と概要		2021 年に環境省からの受託事業によって作成したセルフガイドを尾瀬沼ビジターセンターに設置して、尾瀬訪問者や学校団体等の学習支援に活用する。			
主な該当戦略		ビギナー戦略		ターゲット	国内・小中学生（尾瀬沼地区）
取組	状況	実施中		期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬沼ビジターセンター）			
	実施済	2022 年度から尾瀬保護財団 HP 及び尾瀬沼ビジターセンターで紹介			
	2024 年度	同上			
	2025 年度	同上			
目標値	期限	(いつまでに)			
	項目	(何を)			
	数値	(どうするか)			

2. 尾瀬ハイキングガイドの頒布					継続
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団		連携先	—
目的と概要		尾瀬国立公園の快適な利用をサポートするため、尾瀬の概要、ルール、アクセス等が入った地図を作成し、利用者に対して頒布している。			
主な該当戦略		ビギナー戦略		ターゲット	国内外、その他は特になし
取組	状況	実施中		期間	複数年
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬山の鼻ビジターセンター及び尾瀬沼ビジターセンター（協力金）、尾瀬外（各種イベント会場（無料））、情報媒体（尾瀬保護財団 HP（無料））			
	実施済	新たに群馬県内アウトドアショップに設置（無料）			
	2024 年度	デザインの見直しを実施中。			

	2025 年度	尾瀬内外で配布。		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

3. 尾瀬パンフレットの作成・配布				継続
実施主体		環境省	連携先	—
目的と概要		尾瀬国立公園を利用するにあたってのマナーや注意点、および地図についてまとめたパンフレットを作成し、利用方法だけでなく魅力や過ごし方について説明することで、尾瀬国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ることを目的とする。その一つとして、尾瀬における写真映える場所（フォトスポット）を取りまとめ、パンフレット等で紹介する。		
主な該当戦略		リピーター戦略	ターゲット	尾瀬に初めて来ている利用者（特に行動計画を立てずに尾瀬へ来訪した利用者）
取 組	状況	実施中	期間	複数年（2007 年～）
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]、尾瀬外、情報媒体（2020 年度から尾瀬国立公園サイトにも掲載）		
	実施済	・2020 年度に、これまでの「尾瀬国立公園インフォメーションマップ」を大幅改訂し、各コースの利用方針を分類・明記するとともに、尾瀬の利用方法だけでなく、楽しみ方・過ごし方を明記した。 ・2022 年度に、楽しみ方・過ごし方の提案を強化するため、尾瀬国立公園コンテンツ集とフォトスポットを紹介する QR コードを追加した。		
	2023 年度	同インフォメーションマップを各登山口、ビジターセンター、山小屋、道の駅、その他山麓の施設に配布した（内容の改定は未実施） インフォメーションマップとは別に、尾瀬に興味を持っていると思われる潜在層を対象にした、「滞在利用促進パンフレット及びポスター」を制作し、道の駅、その他山麓の施設に配布した。		
	2024 年度	引き続きインフォメーションマップを各登山口、ビジターセンター、山小屋、道の駅、その他山麓の施設に配布した（内容の改定は未実施）。		
	2025 年度	インフォメーションマップの内容の部分的な改訂（交通アクセスや運賃等）を行うとともに、引き続き尾瀬関連施設への配布を行う。		
目 標 値	期限	(いつまでに)	毎年 4 月末までに	
	項目	(何を)	インフォメーションマップを	
	数値	(どうするか)	尾瀬関連施設に 1,000 部配布	

○誘導標識・解説標識等の整備・更新

- ・ 利用者が戸惑うことなく目的地への道順や、目的地やその途中での尾瀬の楽しみ方を感じ取ってもらえるよう、誘導標識・解説標識等の整備・更新を行います。

4. 尾瀬ルート沿線地域活性化事業				継続
実施主体	尾瀬ルート活性化委員会		連携先	新潟県、魚沼市、民間事業体
目的と概要	尾瀬国立公園の快適な利用をサポートするため、尾瀬の概要、ルール、アクセス等が入った地図を作成し、利用者に対して頒布している。			
主な該当戦略	ビギナー戦略・リピーター戦略		ターゲット	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2009 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（小沢平登山道）		
	実施済	高石沢及びトクサ沢への簡易橋（2 橋）等の設置及び撤去。 登山道の草刈り等実施		
	2023 年度	高石沢、トクサ沢の簡易橋設置、登山道の草刈りを実施（高石沢簡易橋河川増水により流失）		
	2024 年度	トクサ沢の簡易橋設置及び撤去、登山道の草刈りを実施		
	2025 年度	トクサ沢の簡易橋設置及び撤去、登山道の草刈りを実施		
目標値	期限	（いつまでに）	継続事業（春期に簡易橋等設置、冬期撤去）	
	項目	（何を）	小沢平登山道の整備（簡易橋等設置撤去、草刈り実施）	
	数値	（どうするか）	草刈り及びロープ設置：登山道（小沢平裏燧線）約 5 km、簡易橋設置撤去：2 橋	

5. 魚沼から行く尾瀬ルート国道 352 号 洗い越し改築事業				完了
実施主体	新潟県魚沼地域振興局		連携先	—
目的と概要	国道 352 号の安全性向上とバスの運行確保を図るため、洗い越しの段差解消を目的とした改築工事（5 箇所）を実施する。			
主な該当戦略	ビギナー／リピーター戦略		ターゲット	—
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～2024 年）
	場所	尾瀬外（尾瀬に至るまでの銀山平～御池の国道 352 号）		
	実施済	洗い越しの改築工事を実施（3 箇所）		

	2023 年度	洗い越しの改築工事（2箇所）を開始 ※2箇所の工事を次年度も継続		
	2024 年度	前年度からの工事を継続実施（2か所）完了		
	2025 年度	—		
目 標 値	期限	（いつまでに）	2023 年度	2024 年度（前年度の工事繰越し）
	項目	（何を）	洗い越しの段差解消	洗い越しの段差解消
	数値	（どうするか）	段差を解消する改築工事 5 箇所の完了 R3：1 箇所、R4：2 箇所、 R5：2 箇所	R5 から繰越した 2 か所の 工事の完了

6. 会津沼田街道解説文整備事業				新規
実施主体		環境省	連携先	群馬県、檜枝岐村
目的と概要		福島県檜枝岐村と群馬県片品村を結ぶ唯一の古道「会津沼田街道」（群馬県片品村戸倉（大清水）～福島県檜枝岐村七入）は、江戸時代から交易路として利用されていた。街道の魅力を発信することを目的に、会津沼田街道の歴史・自然の解説文を作成し、標識等の媒体化を目指す。		
主な該当戦略		リピーター戦略	ターゲット	国内・国外の地域の歴史や自然に関心のある旅行者
取 組	状況	令和 7 年以降実施予定	期間	複数年（2025 年～）
	場所	尾瀬国立公園内（赤法華鳩待峠線・尾瀬沼集団施設地区・尾瀬沼南岸線・大清水尾瀬沼線）		
	実施済	・解説文の英文を作成（14 個）		
	2025 年度	・赤法華鳩待峠線の沼山峠休憩スペースに解説標識を設置（1 基）。		
	2026 年度	・赤法華鳩待峠線、尾瀬沼集団施設地区及び尾瀬沼南岸線に解説標識を設置（7 基）。		
目 標 値	期限	（いつまでに）	2028 年度までに	
	項目	（何を）	解説文を	
	数値	（どうするか）	14 個媒体化	

○滞在空間の上質化

- ・ 利用者が尾瀬で快適かつ豊かな時間を過ごし、尾瀬ならではの魅力を存分に感じられるように、利用拠点の施設等の環境を整備し、滞在空間の上質化を図ります。

7. 鳩待峠の施設改築における外観整備					継続
実施主体		東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所		連携先	片品村他
目的と概要		鳩待山荘建替えに伴い、至仏山が眺望できるウッドデッキ等を設置し、この場所に来ないと見ることのできない環境を整備することで、滞在者を含めた利用者の促進を図る。			
主な該当戦略		ビギナー戦略、リピーター戦略		ターゲット	若年層～ベテラン層
取組	状況	今後実施予定		期間	複数年（2022 年～2025 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（鳩待峠）			
	実施済	・ 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。 ・ 2023 年度に【山荘】旧鳩待山荘解体工事、新鳩待山荘の基礎工事、受水槽鉄骨組立工事が完了。【休憩所】新鳩待休憩所鉄骨組立工事が完了			
	2024 年度	【山荘】新鳩待山荘の建物工事、受水槽建物工事が完了 【休憩所】新鳩待休憩所建物工事が完了			
	2025 年度	【山荘・休憩所】建物内装工事、オープン予定			
目標値	期限	（いつまでに）		2025 年度内に	
	項目	（何を）		ウッドデッキ等を	
	数値	（どうするか）		設置する	

8. 鳩待峠の外構における植栽整備				継続
実施主体		東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他
目的と概要		鳩待峠は尾瀬国立公園内で最も利用者が多い入山口であるため、施設広場の砂利敷きに周囲の植生に合わせた植物を植栽し、訪れる利用者に尾瀬の自然を感じてもらうことで魅力向上を図る。		
主な該当戦略		ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	若年層～ベテラン層
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～2025 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（鳩待峠）		

	実施済	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。		
	2024 年度	鳩待山荘建替工事実施中		
	2025 年度	植生実施予定		
目 標 値	期限	（いつまでに）	2025 年度内に	
	項目	（何を）	周囲の植生に合わせた植物を	
	数値	（どうするか）	植栽する	

9. 鳩待峠の公衆無線 LAN 環境整備				廃止
実施主体	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所		連携先	片品村他
目的と概要	鳩待峠は尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであるため、若年層やインバウンドの増加が見込まれる。鳩待山荘建替え計画に合わせ施設内の公衆無線 LAN 環境を整備することで若年層やインバウンド利用者の利便性向上を図る。			
主な該当戦略	ビギナー戦略		ターゲット	若年層、インバウンド
取 組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～2024 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（鳩待峠）		
	実施済	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。		
	2024 年度	キャリアによる整備が進んでいるため、対応を見送る		
	2025 年度	中止		
目 標 値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

10. 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業				継続
実施主体	片品村		連携先	環境省、地元民間事業者等
目的と概要	国立公園の利用拠点ではインバウンド対応や個人旅行など旅行ニーズの変化への対応力が遅れ、廃屋化した建物が自然の魅力を著しく妨げている。地元自治体が主となり環境省や地元民間事業者等と協議して利用拠点計画書を策定し、それに沿って補助事業を実施する。（多言語標識や景観の阻害や危険性のある廃屋の撤去等）			

主な該当戦略		ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕		
	実施済	・ 利用拠点計画書を策定 ・ 2023 年度に鳩待山荘の撤去及び新鳩待山荘の建設開始、富士見峠の看板整備		
	2024 年度	新鳩待山荘のリニューアル工事 大清水の看板整備（予定）		
	2025 年度	新鳩待山荘完成（予定） 鳩待峠の看板整備（予定）		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

11. 尾瀬設備クオリティアップ事業				継続
実施主体		群馬県	連携先	
目的と概要		年齢・体力の異なる幅広い層の利用者や外国人利用者が安心、安全、快適に尾瀬を楽しむよう、県有施設の設備整備等を行います。		
主な該当戦略		ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	入山者全般（国内／国外）
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬国立公園内の県有施設）		
	実施済	2021 年度から、大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事を実施 2023 年度は、入山口案内看板再整備（富士見峠）		
	2024 年度	大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事 入山口案内看板再整備（大清水）		
	2025 年度	大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事（予定） 入山口案内看板再整備（鳩待峠予定）		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

○保全活動の強化

- ・ 尾瀬の生態系を維持回復させ、尾瀬本来の姿を取り戻していくために、保全活動を行います。

12. ニホンジカによる植生被害対策					継続
実施主体		環境省		連携先	群馬県立尾瀬高等学校
目的と概要		ニッコウキスゲを始めとする湿原植物等へのニホンジカによる植生被害対策のため、植生保護柵を設置して被害防除を行うとともに、植物の自然回復をはかる。			
主な該当戦略		リピーター戦略、ファン戦略		ターゲット	尾瀬来訪者全般
取組	状況	実施中		期間	複数年（2019 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬ヶ原（下ノ大堀川、竜宮等））			
	実施済	・ 植生保護柵の設置及び維持管理。 ・ 植生保護柵の効果検証及び植生の回復状況を把握するためのモニタリング。 ・ 植生保護柵の設置・撤去作業を群馬県立尾瀬高等学校と共同で実施（2021 年～）。			
	2023 年度	※同上取組を継続 ※設置箇所として笠ヶ岳を追加			
	2024 年度	※同上取組を継続 ※設置箇所として見晴を追加			
	2025 年度	※同上取組を継続予定			
目標値	期限	（いつまでに）	毎年		
	項目	（何を）	尾瀬ヶ原（下ノ大堀川、竜宮）の植生保護柵の設置・撤去作業を		
	数値	（どうするか）	尾瀬高校と共同実施する		

（２）滞在・周遊促進プログラム

- ・ 本取組テーマでは、モデルコース・プラン等の作成、山小屋の魅力向上、体験アクティビティの利用促進、交流イベントの開催の４区分で、計 10 の取組を実施します。

○モデルコース・プラン等の作成

- ・ 利用者自身の目的や関心、体力等に応じてコースを選択し、尾瀬ならではの多様な魅力を体感・体験できるよう、周遊利用や滞在利用のモデルコース・プランを提示します。

13. 会津と上州を結ぶ歴史の道「会津沼田街道」滞在型利用促進事業				継続
実施主体	檜枝岐村	連携先	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	

目的と概要		福島県檜枝岐村と群馬県片品村を結ぶ唯一の古道「会津沼田街道」（群馬県片品村戸倉（大清水）～福島県檜枝岐村七入）は、江戸時代から交易路として利用されていた。 これまであまり知られてこなかった街道の魅力を発信し、少しでも尾瀬の滞在者を増加させると共に、村内宿泊施設利用者を増加させることを目的とする。			
主な該当戦略		ビギナー戦略		ターゲット	
取組	状況	実施中		期間	複数年（2021 年～2024 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬国立公園内（会津沼田街道）） 情報媒体（WEB：尾瀬檜枝岐温泉観光協会の SNS（YouTube 等）			
	実施済	・ 街道に残る文化や自然を幅広く発信するためのプロモーション動画（初夏 Ver.）を制作し、YouTube 等で情報発信を行った。 ・ 街道でのモニターツアー（夏と初秋）を実施し、結果を分析した。			
	2023 年度	・ 2 年間制作した動画を再編集し、YouTube 等で配信事業を行う。 ・ 2 年間制作した動画情報等を基に、街道の魅力を十分に盛り込んだコンセプトブックを片品村と共同で制作する。 ・ 街道の魅力に特化したランディングページを作成する。			
	2024 年度	・ 道行沢線木道改修工事（実施）			
	2025 年度	・ 会津沼田街道安全管理調査（予定）			
目標値	期限	（いつまでに）			
	項目	（何を）			
	数値	（どうするか）			

14. 尾瀬国立公園のモデルコースと体験アクティビティの紹介					継続
実施主体		環境省	連携先	尾瀬ガイド事業者	
目的と概要		尾瀬国立公園を満喫するための、モデルコースやツアーについて、「尾瀬国立公園コンテンツ集」やビジターセンターの展示物としてとりまとめて紹介する。			
主な該当戦略		ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	国内・海外、尾瀬未経験者（特に登山等の経験が浅い利用者）	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）	
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]、尾瀬外、情報媒体（Web）			
	実施済	・ 尾瀬沼ビジターセンターにガイド事業者紹介パネルを作成・設置 ・ 尾瀬国立公園コンテンツ集（2021-2022 年版）の作成と配布。 ・ 同様にツーリズム EXP0 等で国内外の商談会に資料として利用。 ・ 環境省尾瀬国立公園のウェブサイトに掲載。			
	2023 年度	・ 尾瀬国立公園コンテンツ集（2023-2024 年版）の作成（ウェブ版のみ）。			

		・同コンテンツ集を「国立公園に行ってみよう！」サイトに掲載。 ・ツーリズムエキスポ in 大阪にて、尾瀬認定ガイドによる体験コンテンツを紹介。		
	2024 年度	・尾瀬国立公園コンテンツ集（2023-2024 年版）を継続して「国立公園に行ってみよう！」サイトに掲載（内容の更新は実施できず）。 ・ツーリズムエキスポ 2024 において、尾瀬認定ガイドによる体験コンテンツを紹介。		
	2025 年度	・尾瀬国立公園コンテンツ集の内容（コンテンツ、モデルコース）を更新し、「国立公園に行ってみよう！」サイトに掲載予定。 ・ツーリズムエキスポなどの旅行博やイベント等において、尾瀬認定ガイドによる体験コンテンツ等を紹介予定。		
目 標 値	期限	（いつまでに）	2022 年 6 月までに	毎年年度末までに
	項目	（何を）	魅力的なコンテンツや ツアーについて	尾瀬国立公園コンテンツ集を
	数値	（どうするか）	12 個のコンテンツをツア ー事業者と連携して取りま とめる【済】	ウェブ版として取りまとめ、「国立 公園に行ってみようサイト」へ掲載 する

15. 尾瀬と越後三山只見国定公園を紡ぐアドベンチャーツーリズムの推進					新規
実施主体		奥只見観光株式会社		連携先	奥只見郷ネイチャーガイド
目的と概要		水芭蕉時期のオーバーツーリズム解消のため、尾瀬の魅力と文化・歴史の講義をツアーの中で開催し、水芭蕉の時期以外の来園者増に繋げることとリピーターも増やしたい。			
主な該当戦略		ビギナー／リピーター戦略		ターゲット	国内／関西以西
取組	状況	2025 年度の販売に向けて調整中		期間	毎年 6 月 1 日～10 月 15 日（予定）
	場所	尾瀬国立公園、新潟県魚沼市（八海山、銀山平、奥只見ダム）			
	2025 年度	ツアー販売			
	2026 年度	ツアー販売を継続			
目標値	期限	（いつまでに）	2025 年 10 月 15 日		
	項目	（何を）	ツアー参加者		
	数値	（どうするか）	100 名集客		

16. 尾瀬散策スタンプラリー2024				新規
実施主体	山と溪谷社		連携先	
目的と概要	尾瀬に足を運んでもらった方の周遊を促進する尾瀬散策スタンプラリー			
主な該当戦略	リピーター戦略		ターゲット	国内在住者
	状況	2024 年再開	期間	2024 年 6 月 15 日～10 月 19 日

取組	場所	尾瀬全域（散策 8 か所・登山 4 カ所）		
	2024 年度	実施済み		
	2025 年度	未定		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

○山小屋の魅力向上

- ・ 尾瀬の利用拠点となる山小屋において、利用者が快適に過ごせるよう、施設（食堂利用や売店、休憩所等）の改修やサービス形態等の変革を進めるとともに、各小屋の個性やウリ、提供するサービスの充実を図ります。

17. 宿泊者に対するスライドショー					継続
実施主体		尾瀬山小屋組合	連携先	①一部山小屋 ②全山小屋	
目的と概要		宿泊者に対し座学として尾瀬の歴史や風景等を、スライドを使用し説明。			
主な該当戦略		ビギナー／リピーター／ファン戦略	ターゲット	宿泊するお客さま	
取組	状況	実施中	期間	複数年	
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（オープンスペース他）			
	実施済	・ 尾瀬の風景写真等を活用して更なる尾瀬の魅力を宿泊されたお客様にお伝えしていく。 ・ 2023 年度は、サステナ事業として、山小屋滞在コンセプトの実施を計画・モニターツアー、山小屋ポータルサイトの新設、山小屋紹介冊子の制作を実施			
	2024 年度	取組実施に向けた検討開始			
	2025 年度	※人員不足等により統一的な対応は難しいと判断			
目標値	期限	（いつまでに）			
	項目	（何を）			
	数値	（どうするか）			

18. 客室の改修				継続
実施主体	尾瀬沼ヒュッテ		連携先	
目的と概要	カプセル型ユニットを導入し、お一人様の受け入れを図っている。 コロナ禍以降、お客様の状況、ニーズは大きく変化していてそれに対応しながらの営業を心掛けたい。少しずつお客様の入りも多くなってきているが、従業員スタッフが少なく稼			

		働いきれていない部分がある。土日祝祭日に宿泊が集中しており、平日分散化を図る観点から平日料金を導入している。		
主な該当戦略			ターゲット	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬沼ヒュッテ）		
	実施済			
	2024 年度	客室の床替え等の改修		
	2025 年度	客室の床替え等の改修予定		
目標値	期限	（いつまでに）	2025 年まで	
	項目	（何を）	4.5～6 畳の床替え	
	数値	（どうするか）		

19. B&B スタイルの宿泊施設へと転換				継続
実施主体		尾瀬御池ロッジ	連携先	
目的と概要		2022 度より新たに B&B スタイルの宿泊施設へと転換を図り運営していく予定である（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020～2021 年度まで休館）。 B&B へ変更する理由としては、現在尾瀬を含め、北アルプスなどの大半の山小屋では 1 万円を切る宿泊施設が存在しなくなっている。加えて、登山者を取り巻く状況は、給与が上がらず物価上昇を招くいわゆるデフレ現象が発生している。更に登山者の多くは年金受給者であり、1 泊 1 万円以上の山小屋に宿泊したくてもできない状況が垣間見られ、今後益々山小屋の経営状況は厳しくなると予想される。このような状況から、安価に宿泊できゆったりと尾瀬の四季の魅力を堪能できる機会を設けること、そして、お客様により多くの選択肢を与え、より多くの方々に尾瀬に足を向けていただくことが必要と考える。また新型コロナウイルスの影響によりアルバイトの応募が少なくなり、経営に支障を来している状況にある。宿泊施設で最も人手を必要とするのが食事であり、夕食をなくし、朝食を軽朝食にすることで人手が軽減できるようになる。 これまでの旅行形態としては、非日常的な雰囲気の中で贅沢をするという概念が一般的であったと思われるが、『贅沢』を『セルフ』に代えることで安価で個々の楽しみが増えることへと繋がり、新たな山の旅行スタイルへと転換できるものと期待する。		
主な該当戦略			ターゲット	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬御池ロッジ）		
	実施済	2022 年度に B&B スタイルの宿泊施設に転換し、2023 年度から B&B スタイルの宿泊施設として運営		

	2024 年度	B&B スタイルの宿泊施設として運営		
	2025 年度	B&B スタイルの宿泊施設として運営予定		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

○体験アクティビティの利用促進

- ・ 尾瀬ならではの魅力を体験を通じて感じ取ってもらうために、ガイドやインタープリターが提供する体験アクティビティのメニューの充実を図ります。

20. 星空観察会の定期開催				継続
実施主体	尾瀬沼ビジターセンター (環境省からの受託事業)		連携先	
目的と概要	尾瀬シーズン中の6～10月、週末・祝日の前後の夜を中心に星空観察会を開催。 星座解説等を行うことによって利用者満足度を向上し、宿泊者限定のコンテンツで尾瀬の魅力をアピールする。			
主な該当戦略	リピーター戦略		ターゲット	
取組	状況	実施中	期間	複数年(2017年～)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺](尾瀬沼ビジターセンター(内・周辺))		
	実施済	尾瀬シーズン中の6～10月に定期的に複数回の星空観察会を実施(無料)。		
	2024 年度	尾瀬シーズン中の6～10月に定期的に複数回の星空観察会を実施(無料)。		
	2025 年度	同上		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

○交流イベントの開催

- ・ 尾瀬の自然環境を活かして尾瀬の自然・歴史・文化を伝え、交流するイベントを開催します。

21. 山・音楽・食・地元文化をミックスしたイベントの開催				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先	下記参照	
目的と概要	国立公園内及び隣地のスキー場やキャンプ場を活用し、アーティストや著名人・YouTuber・山小屋・アウトドアメーカー・地元商店や行政機関などを誘致し、影響力ある人たちの力			

		を 借りながら、国立公園の魅力や地元地域の伝統文化PRを目的としたイベントを開催。新型コロナウイルスにより影響を受けた地元観光業・宿泊事業所の入客斡旋も兼ね添える。 ・地元の名産物だけでなく、協賛企業のキッチンカーを誘致し、地元の方々にも全国の食の楽しみを味わって頂けるようなグルメブースを設置する。 ・アウトドアメーカーに参画頂き、テント泊が体験出来るプランの設置、登山装備の講習や歩行指導などが体験出来る参加型ブースも設置。 ・環境省及び国立公園のレンジャーや、保全団体・ボランティア団体にも参画頂き、国立公園の植生保護やゴミ問題、その他国立公園が抱える、様々な課題や問題点を来場者に直接伝える事ができる場所を提案。 ・収益の一部を国立公園や自然保護・地元行政などの活動費用に還元出来る仕組みとする。星座解説等を行うことによって利用者満足度を向上し、宿泊者限定のコンテンツで尾瀬の魅力アピールする。 ・収益の一部を国立公園や自然保護・地元行政などの活動費用に還元出来る仕組みとする。		
主な該当戦略		ファン戦略	ターゲット	
取組	状況	実施中	期間	
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（国立公園内及び隣地のスキー場やキャンプ場）		
	実施済	2023 年度は、 ■アウトドアメーカーTeton Bros. との尾瀬コラボ商品の開発とリリース。尾瀬でしか手に入らない限定商品をリリースする事により、購入を目的とした入山動機の開拓に寄与。収益の一部を檜枝岐村ガイドに寄付。 ■登山ユーチューバーかほさん、もじゃまるさん、ヤマヒロさん、カブパパさんなどが尾瀬訪問。尾瀬国立公園のPRに寄与。誘致したYoutuber による動画総再生数は25万回以上。 ■新宿御苑にて尾瀬国立公園、中部山岳国立公園の共同イベントを開催。キッチンカーにて尾瀬小屋グルメを提供。		
	2024 年度	■バイオリニストを誘致し、尾瀬見晴地区にてコンサートの開催。※台風により中止。 ■ボランティアによる、流星群観察イベント、お話会の実施。 ■歩荷さんとのマルシェ開催・トークイベントを開催。 ■一般客の簡易的な挙式開催。非日常的な環境での感動体験を造成。 ■都内にてイベントを実施。4月50人・10月50人。12月100人。計200名動員。		
	2025 年度	■バイオリニストを誘致し、尾瀬見晴地区にてコンサートの開催。 ■登山道整備や保全活動を盛り込んだツアー造成・体験コンテンツを造成予定。 ■アウトドアブランドTeton Bros. とALTRA と協業予定。		

目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

22. アウトドア好きな人々の交流創出				継続
実施主体		尾瀬小屋	連携先	
目的と概要		同じ趣味同士だから発展率も高く、大自然の中に身を置く事で、非日常的なロケーションから開放的な気持ちになる。また、普通の街コンとは違い『登山やアウトドアが好き』という共通の話題がある事で、自然と心の距離は近くなるものと考えられる。 そこで、出会うだけではなく『国立公園』をもっと好きになり、やがては思い出の場所として、何度も訪れて貰える様な場所として本企画を推進する。 ・自社の尾瀬小屋はもちろん、全国の国立公園の宿泊地を使用する事で、地域も限定されず気軽に参加可能。また地域毎の特色を活かした、伝統や文化、歴史などを感じる事で利用した地域に愛着を持って頂く事を目標とする。 ・尾瀬においては高低差もほとんどない為、初心者でも気軽に参加が可能。また、山小屋を利用する事で、最低限の荷物で参加が可能。かつ国立公園内での滞在時間を長める事が可能。 ・ターゲットは老若男女問わず受け入れる事が出来ます。企画催行は、年齢層別に組む事で汎用出来、参加人数やイベント規模に応じて、観光バス、マイクロバス、ハイエース車両など全ての車両で登山口までアプローチが可能。 ・空室の多い期間の売上補強になりうる案件でもあり、国立公園の宿泊事業者との相乗効果も見込まれる。		
主な該当戦略		ファン戦略	ターゲット	20代～30代男女
取 組	状況	実施中	期間	
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施済	2023年度に関係者との調整、イベントの開催		
	2024年度	■東京都内の企業様向けにワーケーションプログラムを作成。50人の誘致に成功。		
	2025年度	■ユーチューバー・有名ブロガーなどと交流出来る参加型宿泊体験を計画。		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

(3) 魅力的プロモーション実施プログラム

- ・ 本取組テーマでは、尾瀬のイメージの発信、Web ページ、SNS の活用、外部企業・人材との連携による PR の 3 区分で、計 21 の取組を実施します。

○尾瀬のイメージの発信

- ・ 尾瀬の多様な魅力、楽しみ方等について情報発信を行います。

23. グルメを通じた国立公園の魅力発信				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先		
目的と概要	尾瀬小屋は「食べる」というアクションを通して、国立公園の魅力や課題を発信していく取り組みをしている。 【魅力発信】：「山でこんなご馳走が食べられるの？」そんな驚きと感動の料理 を低価格で楽しめる世界を国立公園内に 実現させた。また、地元の食材を料理に取り入れる事で、国立公園に隣接する地元の魅力発信の役割も兼ね備えている。 【課題発信】：尾瀬の山小屋への物資輸送は、ヘリコプターか歩荷（ボッカ）と呼ばれる人力輸送のみとなる。しかし、相次ぐヘリコプター会社の山岳輸送撤退や若手のパイロット不足、運搬費用の高騰、歩荷さんの存続危機など、深刻な課題に直面している。そうした課題を食べ物を通して利用者に知ってもらい、一人一人が出来る事を考える事で、国立公園の持続可能な社会にする事を目標としている。 【地域密着】尾瀬周辺地域は豊富な水に恵まれ、有名な酒造が点在する。2022 年は食材だけでなく、料理に合わせ美味しい地元のお酒を国立公園で味わい、更なる付加価値と非日常体験を造成する。 【経済貢献】地元の酒造様と提携し、尾瀬国立公園オリジナルブランドもしくは希少性の高いお酒を提供いただき、体験価値を高めていただく。商品提供を頂いた返礼に、上記商品の売上は地元の酒造様に 100%返還とさせていただきます。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	20 代～30 代男女	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬小屋）、 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施済	2023 年度は、 ■尾瀬グルメを新たに 20 品開発。レストラン利用は 5 ヶ月で 1 万人程度。 ■群馬県川場村の土田酒造と協業し、尾瀬で地酒を提供。ゴミを輩出しない特注容器をオリジナルで作成し、地産地消を目的とした取り組みを実施。 ■物資輸送の未来を再考すべく、川崎重工業様を尾瀬見晴ヘリポート視察誘致。協業を模索		

	2024 年度	■新たな山小屋グルメを 20 品目提供。 ■宿泊者向けの調理工程を軽減し、ゴミの削減に成功。都会での低温調理加工スキーム。 ■土田酒造（群馬）様、株式会社 AC 福島ユナイテッド様の商品 PR 協業。 ■他の山小屋のメニュー開発支援を実施。		
	2025 年度	■食の課題を抱える山域・施設様への支援。 ■地元の特産品 PR		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

24. 片品・檜枝岐・魚沼・南会津共同の登山口での PR 活動事業				協議中
実施主体	（一社）片品村観光協会		連携先	尾瀬関係市町村観光協会など
目的と概要	各登山口にて協同 PR 活動を実施する。			
主な該当戦略	ビギナー／リピーター戦略		ターゲット	
取組	状況	今後実施予定	期間	単年（2022 年）
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]（各登山口）		
	実施済	2022 年度に鳩待峠・御池で実施		
	2024 年度	協議中		
	2025 年度	未定		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

25. Instagram キャンペーン（フォトコンテスト）				継続
実施主体	（公財）尾瀬保護財団		連携先	（公財）尾瀬保護財団
目的と概要	SNS を通じた尾瀬の認知拡大を図るため、四季折々の尾瀬の風景、尾瀬で出会った動植物、尾瀬で過ごす人々を捉えた写真を対象として、SNS 投稿キャンペーン（コンテスト）を行う。			
主な該当戦略	ビギナー／リピーター戦略		ターゲット	国内、若者、カメラ
取組	状況	実施中	期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]、情報媒体（Instagram 及び財団 HP）		
	実施済	2022 年度から尾瀬の写真の Instagram 投稿を呼びかけ、優れた写真を選出して発表し、四季折々の尾瀬の魅力を PR した。		

	2024 年度	シーズンを通じて尾瀬の写真の Instagram 投稿を募集し、優れた作品を選出して発表し、魅力あふれる尾瀬を PR した。		
	2025 年度	同上		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

26. ふくしま尾瀬魅力発信強化事業				継続
実施主体	福島県		連携先	環境省、檜枝岐村及び南会津町
目的と概要	ふくしま尾瀬の魅力等を年間を通して情報発信するほか尾瀬での自然体験ツアーやフォトコンテストを開催し、「ふくしま尾瀬」に訪れるきっかけを創出する。			
主な該当戦略	リピーター戦略		ターゲット	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）、情報媒体（ふくしま尾瀬 Web、SNS 及び特設 Web）		
	実施済	・2020 年度は、現地取材を基に自然や歴史、山小屋など「ふくしま尾瀬」ならではの魅力について、コラム記事や動画を作成し、Web、SNS 等により配信。 ・2021 年度は、前年の取組に加え、テレビや Web での CM 配信や、ふくしま尾瀬のアフターコロナを見据えたインバウンド対応（英語化）を行うなど、情報発信の強化を行う。 ・2022 年度は、尾瀬での自然体験をメインとした著名人やガイドが案内するメディアツアーやプロカメラマン等が案内するフォトツアーを実施。ふくしま尾瀬フォトコンテストを開催し、入賞作品の公共施設等での展示等を実施。既存のふくしま尾瀬の Web や SNS において、尾瀬の新着情報を発信。 ・2023 年度は、著名人とガイドが案内する会津駒ヶ岳親子自然体験ツアー、YouTuber が案内する動画撮影教室ツアーを開催。ふくしま尾瀬フォト＆ムービーコンテストを開催し、入賞作品を檜枝岐村山旅案内所と福島県庁に展示。既存のふくしま尾瀬の Web や SNS において、尾瀬の新着情報を発信。		
	2024 年度	・ふくしま尾瀬フォトコンテストを開催。受賞作品を東武鉄道本線や東京メトロ相互乗り入れ車両の中吊りポスターとして掲出。 ・池袋駅南ロイイベントステージにてふくしま尾瀬の魅力を発信するイベントを開催し、令和 4～6 年度に実施したふくしま尾瀬フォトコンテスト入賞作品を展示・放映。 ・既存のふくしま尾瀬の Web や SNS において、尾瀬の新着情報を発信。		
	2025 年度	未定		
	期限	(いつまでに)		

目 標 値	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

27. 尾瀬フェアの実施				新規
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団	連携先	尾瀬関係者
目的と概要		尾瀬の入山者数が長期的には減少傾向にある中、ビギナー登山者へ尾瀬の魅力をPRして新たな尾瀬ファンを獲得するため、首都圏の商業施設等でイベントを開催する。		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	国内／アウトドア愛好家
取 組	状況		期間	2024 年～
	場所	集客が期待できる首都圏等のイベント会場		
	実施済	2024 年 6 月 22～23 日(土日)にモリパークアウトドアヴィレッジ(東京都昭島市)で実施		
	2025 年度	尾瀬保護財団 30 周年記念事業の関連イベントとして PR を実施(尾瀬フェアの位置付けとするかは未定)		
	2026 年度	未定		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

28. 「第 8 回山の日全国大会」での尾瀬PR				新規
実施主体		株式会社山と溪谷社	連携先	
目的と概要		東京都八王子市で行われた「第 8 回山の日全国大会」での尾瀬の PR		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	首都圏在住の国内在住者
取 組	状況	約 1 万人が来場し、弊社ブースでは尾瀬の歩荷体験が人気を集めた	期間	2024 年 8 月 10 日～11 日
	場所	東京たま未来メッセ(東京都八王子市)		
	2024 年度	実施済み		
	2025 年度	未定		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

29. 高尾山駅前での尾瀬PR					新規
実施主体		株式会社山と溪谷社		連携先	
目的と概要		年間 250 万人が訪れる東京・高尾山口の駅前で弊社と京王電鉄の合同イベントを開催し、そこで尾瀬の PR			
主な該当戦略		ビギナー、自然志向の方に向けての戦略	ターゲット	首都圏の国内在住者及びインバウンド	
取組	状況	尾瀬の歩荷体験が人気を集めた		期間	2024 年 10 月 26 日～27 日
	場所	東京都八王子市・高尾山口駅前			
	2024 年度	実施済み			
	2025 年度	3 月に高尾山口でイベント実施予定			
目標値	期限	(いつまでに)			
	項目	(何を)			
	数値	(どうするか)			

○Web ページ、SNS 等の活用

- ・ 尾瀬の多様な魅力、旬な情報を提供するために Web ページ、SNS 等の有効活用を図ります。

30. SNS を活用した魅力発信					継続
実施主体		尾瀬小屋		連携先	
目的と概要		尾瀬小屋の SNS は、2021 年より運用開始。営業開始から営業終了までの僅か5ヶ月で、多くのファンを獲得に成功。特に写真を多用して「尾瀬の今」を発信。文字よりも、説明よりも、写真で伝える事にこだわって配信を心掛けている。また、魅力だけでなく、冬期の小屋管理の大変さや山小屋が抱える課題なども率先して発信している。			
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	20 代～50 代男女	
取組	状況	実施中		期間	複数年（2021 年～）
	場所	情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）			
	実施済	・ 2021 年より尾瀬小屋 SNS を運用開始。 ・ 2023 年に SNS の総フォロワー3 万人を達成。目標 2 万人を大きく超えた。			
	2024 年度	■SNS 総フォロワー4.3 万人に到達。前年比+1.3 万人。 ■2 月から 10 月にかけて尾瀬を撮影。12 月に全国配信と都内にて上映会のイベント実施。 ■人気登山ユーチューバー10 名誘致。尾瀬の魅力発信に貢献。			
	2025 年度	■総フォロワー5.5 万人を想定。 ■ユーチューブのショート動画制作や Tik Tok の積極的な映像制作。			

		■ライブカメラにて情報提供。		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

31. 南会津町観光物産協会情報発信事業				継続
実施主体		南会津町観光物産協会館岩支部	連携先	
目的と概要		①田代山、帝釈山の魅力を登山者に伝えるため、南会津町観光物産協会のホームページ又は、SNS アカウント（Facebook、Instagram、Twitter）を活用して情報発信を行う。具体的には、花の様子、交通情報、イベント情報などを発信し、知名度向上、魅力向上を図っている。 ②①の内容を南会津町館岩地域の観光施設、道の駅などに情報提供（FAX）を行い、各施設で情報が取得できるようにしている。		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	国内、登山が趣味の方
取 組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	情報媒体（南会津町観光物産協会の SNS アカウント）		
	実施済	SNS は、週 1 ～ 2 回を目安に情報発信ができるように努めている（6 月～ 10 月）		
	2024 年度	継続実施		
	2025 年度	継続実施		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

32. 魚沼市観光協会情報発信事業				継続
実施主体		(一社) 魚沼市観光協会	連携先	
目的と概要		船とバスで行く魚沼ルートを尾瀬登山者に紹介するため、(一社) 魚沼市観光協会のホームページ又は SNS アカウント（Facebook、Instagram、X）を活用して情報発信を行う。具体的には、花の様子、交通情報、イベント情報などを発信し、知名度向上を図っている。		
主な該当戦略		ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	国内、登山が趣味の方（個人、グループ、団体）
取 組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	情報媒体（魚沼市観光協会のホームページ、SNS アカウント）		

	実施済	5/1 の交通機関予約受付開始の予告を皮切りに、その後尾瀬ツアーの告知、ルート開通情報、尾瀬関連イベント、視察等に伴う尾瀬の現地レポートなど 4 月～10 月にかけて情報発信を実施。		
	2024 年度	継続実施		
	2025 年度	継続実施		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

33. Instagram（尾瀬公式アカウント）の活用				継続
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団	連携先	
目的と概要		関係機関や公園利用者等を広く巻き込みながら、「みんな」で（まだ知られていない）尾瀬の多様な魅力を発信することで、尾瀬の認知度を高めるとともに魅力あふれる尾瀬を国内外に発信する目的で、令和元年度から「尾瀬公式 Instagram アカウント」を運用している。写真・記事の投稿の他、指定ハッシュタグ「#discoveroze」を付けた外部の投稿を再投稿している。		
主な該当戦略		ビギナー／リピーター戦略	ターゲット	国内、若者
取組	状況	実施中	期間	複数年（2019 年～）
	場所	情報媒体（Instagram 及び財団 HP トップページへの埋め込み）		
	実施済	次の情報等を不定期で発信する。 ・尾瀬の魅力を伝える記事、写真並びにこれに付随する情報 ・尾瀬で行われる取組 その他、指定ハッシュタグの付いた外部の投稿を選定して、再投稿している。		
	2024 年度	継続実施		
	2025 年度	同上		
目標値	期限	(いつまでに)	2024 年度末までに	
	項目	(何を)	フォロワー数を	
	数値	(どうするか)	11,000 人にする（11 月 19 日時点で 11,263 人で達成済み）	

34. 片品村むらづくり観光課公式ユーチューブ 動画配信				継続
実施主体		片品村	連携先	

目的と概要		尾瀬を含む片品村の状況を伝えるために、職員が尾瀬を含め片品村の観光地に入り動画撮影して配信する。		
主な該当戦略		ビギナー／リピーター戦略	ターゲット	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2019 年～）
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]、情報媒体（YouTube）		
	実施済	2021 年 4 月に片品村むらづくり観光課公式 YouTube を開設し、職員が尾瀬を含め片品村の観光地に入り動画撮影して配信している。		
	2024 年度	未実施		
	2025 年度	季節ごとに尾瀬に入りその状況を動画撮影し配信。（予定）		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

35. 尾瀬国立田代山のポスター作成・配布				新規
実施主体		南会津町観光物産協会館岩支部	連携先	
目的と概要		高山植物と山の形が特徴的な尾瀬国立田代山の知名度を向上させることを目的とするポスターを作成し、観光施設や観光物産協会員に配布し、誘客の手段の一つとしてもらう。（再版）		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	登山者、カメラ
取組	状況		期間	2025 年 4 月～
	場所			
	実施済			
	2025 年度	ポスターを作成し、地域内及び、イベントでの掲示を行う。		
	2026 年度	同上		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

○外部企業・人材との連携による PR

- ・ 尾瀬の魅力を潜在利用者等に届けるために、外部企業・人材と連携して PR を行います。

36. ポストコロナインバウンド誘客事業				継続
実施主体		(一社) 片品村観光協会		連携先
目的と概要		訪日外国人旅行者誘客による地域経済の活性化を図るため、認知度と、来訪意欲向上に向けた取り組みを進める。本事業では、「海外メディアの活用」、「インフルエンサーの招聘」「現地観光セミナー」を通じて、尾瀬をはじめとする本村の観光資源の魅力を海外（オーストラリア・台湾）に向けて発信するとともに、「外国人アドバイザーの招聘」を実施することで、観光資源の磨き上げを図る。 ①台湾看板広告：台湾 JTB とタイアップし、現地旅行番組等で尾瀬の紹介並びに台湾地下鉄駅看板展開を図る。 ②インフルエンサー招聘：海外インフルエンサー（ブロガー、Youtuber）を招聘及び商談会 ③外国人アドバイザー招聘：片品村の観光コンテンツをより魅力的なものとするため、外国人アドバイザーから、改善点等を抽出します。 ④台湾 ITF 参加：台湾世界旅行博出展。		
主な該当戦略		ビギナー／リピーター／ファン戦略	ターゲット	
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022～2024 年）
	場所	尾瀬外（村内、台湾）、情報媒体（Web）		
	実施済			
	2023 年度	概要内容を本年度実施。（台湾看板広告）		
	2024 年度	概要内容を本年度実施（台湾現地観光展及び海外メディアの活用）		
	2025 年度			
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

37. モンベル会員雑誌 フレンドエリアの登録				継続
実施主体		片品村		連携先
目的と概要		誘客を目的として、モンベルフレンドエリアに片品村の観光情報を掲載する。		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	

取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	情報媒体（モンベル Web ページ及び雑誌）		
	実施済	2021 年 12 月以降、Web や雑誌に尾瀬の情報が掲載。		
	2024 年度	モンベル会員特典ガイドに尾瀬の情報を掲載。		
	2025 年度	モンベル会員特典ガイドに尾瀬の情報を掲載（予定）		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

38. 尾瀬歩荷の魅力発信事業				継続
実施主体		尾瀬小屋	連携先	
目的と概要				
主な該当戦略		ファン戦略	ターゲット	30 代～50 代男女
取組	状況	実施中	期間	
	場所			
	実施済	2023 年度は、 ■5 月～10 月の 5 ヶ月間で、200 枚程度の歩荷さんの写真を撮影し、SNS にて投稿。 ■小屋の売店ブースに歩荷さんの写真パネルを展示。 ■歩荷さんに売上収益の一部、6 万円を寄付。		
	2024 年度	■写真パネルの更新を実施 ■歩荷さんへの寄付金 BOX の設置 ■T シャツ 1 枚販売につき 1000 円の還元。※合計 300,000 円を歩荷さんへ寄付。 ■SNS にて情報発信。マスメディアを歩荷さんへ紹介。 ■シューズ提供 (ALTRA 様) ■尾瀬・川崎・東京にて 5 度のイベント実施。		
	2025 年度	■歩荷さんへの寄付金 BOX の設置 ■イベント実施 ■シューズ・ウェア提供・サポート		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

39. サッカー業界への尾瀬の発信				継続
実施主体		尾瀬小屋	連携先	
目的と概要				
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	20代～30代男女
取組	状況	実施中	期間	
	場所			
	実施済	2023年度は、 ■2023年3月檜枝岐村小学校にて川崎フロンターレ応援交流会を開催。 川崎フロンターレの選手よりビデオレターや応援グッズを贈呈。 ■2023年8月檜枝岐村民約40名を川崎フロンターレのホームスタジアム等々力競技場へ招待。選手交流や試合観戦、バックヤードツアーに参加。川崎と檜枝岐村に架け橋を作る。 ■2023年9月株式会社フロンターレの社長含む役員が尾瀬を学ぶため、尾瀬見晴へと宿泊訪問。2024年のサッカーと登山の更なる協業の可能性を模索。		
	2024年度	■川崎フロンターレ・福島ユナイテッド・SNS相互フォロー・尾瀬の情報発信を実施 ■南葛SCのサポートを実施し、ファンに尾瀬を訴求 ■12月檜枝岐村にて川崎フロンターレサッカー教室開催		
	2025年度	■子供たちに向けたイベントを継続実施 ■サッカー選手の誘致を計画		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

40. 陸前高田市との連携事業				継続
実施主体		尾瀬小屋	連携先	陸前高田市
目的と概要		機会拡大		
主な該当戦略		ファン戦略、リピーター戦略	ターゲット	30代～50代男女
取組	状況	実施中	期間	
	場所			
	実施済			
	2023年度	■弊社と復興支援の関係性があり、三陸復興国立公園だけでなく、尾瀬の国立公園を見てもらい学びの場の機会を提供する予定です。		
	2024年度	■環境省を交えたWEB会議の実施。		
	2025年度	■引き続き計画の推進		

目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

41. マルコメとの連携による新潟からの魅力発信				継続
実施主体		尾瀬小屋	連携先	マルコメ株式会社
目的と概要		魚沼と尾瀬の連携		
主な該当戦略		リピーター／ファン戦略	ターゲット	
取 組	状況	実施中	期間	
	場所			
	実施済			
	2023 年度	■魚沼を代表する企業でもあるマルコメ株式会社様と連携を図り、新潟からの尾瀬の魅力を訴求していく予定。		
	2024 年度	■マルコメ味噌を使用した朝食メニューで新潟を応援。		
	2025 年度	■味噌以外の PR 商品協業		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

42. 台湾人インフルエンサーとの連携				新規
実施主体		山と溪谷社	連携先	
目的と概要		台湾人インフルエンサーを尾瀬に招聘し発信依頼		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	台湾在住者
取 組	状況	Instagram で尾瀬の動画を発信 https://www.instagram.com/reel/DA1FDiTxUG-/	期間	2024 年 9 月
	場所	尾瀬全域、原の小屋		
	2024 年度	実施済み		
	2025 年度	未定		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

43. OZE BOARDWALK project 尾瀬地域のインフルエンサーさんのショートドキュメントの取材と動画配信				継続
実施主体		三条印刷株式会社	連携先	OZE BOARDWALK project 広報担当 高木
目的と概要		尾瀬国立公園に関連する尾瀬のインフルエンサーの活動の取材と発信。 国立公園においての様々な課題への取り組みや、尾瀬国立公園の今後の取り組み・思いなど、インフルエンサーさんのショートドキュメンタリーの動画として、取材・編集と配信を行っております。※他の国立公園との連携も含めて配信。		
主な該当戦略		ファン戦略	ターゲット	国内外の尾瀬ファン・国立公園ファン
取組	状況	実施中	期間	2024 年 9 月
	場所	国立公園及び関連地域		
	実施済	2022 年…尾瀬歩荷(萩原さん) 2023 年…山小屋(尾瀬小屋工藤さん)、おぜしかプロジェクト(小山さん)		
	2025 年度	継続取材あり 1 名取材配信の予定		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

(4) 尾瀬ファン創出プログラム

- ・ 本取組テーマでは、環境保全に資する行動の普及・啓発、ボランティア活動の充実、尾瀬ファンとの交流の3区分で、計4の取組を実施します。

○環境保全に資する行動の普及・啓発

- ・ 尾瀬に来訪する利用者に環境保全に資する行動を取ってもらうために、入山時の注意やマナー等の普及、啓発を行います。

44. 至仏山の登山マナー啓発				継続
実施主体	至仏山保全対策会議	連携先		
目的と概要	至仏山登山者のマナーアップを図るため、至仏山マナーマップを作成してビジターセンターなどで配布するとともに、尾瀬保護財団のウェブサイトにも情報を掲載して啓発を行う。 ・ ゴールデンウィーク中までの残雪期における入山についての注意事項周知 ・ 植生保護のための登山道閉鎖期間の設定（ゴールデンウィーク後～6月下旬まで） ・ 東面登山道の登り専用利用の徹底			

		・携帯トイレの携行励行 ・ストックキャップの使用励行 など		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	国内外
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（山ノ鼻 VC、尾瀬沼 VC）、情報媒体（尾瀬保護財団 HP）		
	実施済			
	2024 年度	継続実施		
	2025 年度	同上		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

45. 財団 HP での情報提供・普及啓発				継続
実施主体		（公財）尾瀬保護財団	連携先	
目的と概要		尾瀬の魅力等の発信、入山時の注意やマナーを啓発する為に、財団のホームページや SNS で下記の情報を発信している。また、問合せ電話番号やメールアドレスを公開するとともに、尾瀬に関する情報提供を事務局とビジターセンター（シーズン中）で行っている。ビジターセンターでは、来館者対応やイベント等を通して情報提供、普及啓発を行っている。 ■ホームページ、SNS ・道路情報やアクセス情報、ルール・マナー等、尾瀬を訪問する際に必要な情報 ・尾瀬の歴史や取組等の尾瀬の知識を深める為の情報 ・シーズン中の現地情報等 ■ビジターセンター ・来館者対応、日中や夜間のイベントを通じた尾瀬の価値、注意のレクチャー ・尾瀬関係者と連携した尾瀬の理解を深める展示・イベント （福島県尾瀬保護調査会での調査活動（展示、観察会等の実施）など）		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	国内
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（ビジターセンター）、尾瀬外（尾瀬保護財団事務局）、情報媒体（尾瀬保護財団 HP、SNS）		
	実施済	HP、SNS、電話での情報提供、ビジターセンターイベントを通じた啓発		
	2024 年度	継続実施		
	2025 年度	同上		
	期限	（いつまでに）		

目 標 値	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

○ボランティア活動の充実

- ・ かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、次代に引き継いでいくために、利用者が保全活動に関われるプログラムや仕組みを充実させます。

46. 尾瀬ボランティア活動支援				継続
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団	連携先	
目的と概要		財団が組織する尾瀬ボランティアの活動を支援する。 木道・木打ち、移入植物駆除、シカ柵設置・撤去、巡回清掃、入山口啓発、定点解説、ボランティアガイド「尾瀬自然解説ガイド」など、入山マナー啓発や保護に関する取組を行っている。		
主な該当戦略		ファン戦略	ターゲット	国内
取組	状況	実施中	期間	複数年(1996年～)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施済	入山口啓発、移入植物駆除、シカ柵設置・撤去、巡回清掃		
	2024年度	継続実施		
	2025年度	同上		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

47. 企業ボランティア活動支援				継続
実施主体		(公財) 尾瀬保護財団	連携先	
目的と概要		巡回清掃、自治体等が整備するシカ柵の設置・撤去などに際し、企業からボランティア参加者を募っている。		
主な該当戦略		ビギナー戦略、ファン戦略	ターゲット	国内
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施済	巡回清掃、シカ柵撤去作業		
	2024年度	継続実施		

	2025 年度	同上		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

○尾瀬ファンとの交流

- ・ 尾瀬関係者が尾瀬の価値を見直し、再認識する機会として尾瀬ファンとの交流の場を設けます。
- ・ 令和6年度現在、実施されている取組はありません。

(5) シビックプライド形成プログラム

- ・ 本取組テーマでは、尾瀬での共同作業の実施、尾瀬を学ぶ場の機会の充実に関する取組の2区分で、計7の取組を実施します。

○尾瀬での共同作業の実施

- ・ 尾瀬関係者等と共同で尾瀬の自然環境を次代へ継承するための取組を行います。

48. 移入植物の駆除（オオハンゴンソウ、ハルザキヤマガラシ）				継続
実施主体		（公財）尾瀬保護財団	連携先	尾瀬ボランティア、尾瀬ガイド協会、福島県、檜枝岐村、新潟県、魚沼市、群馬県、片品村、環境省、会津森林管理署南会津支署など
目的と概要		特別保護地区を取り囲むエリアでは、車道沿いにおいて生態系に被害を及ぼすおそれのある移入植物の生育が確認されており、その対策を進める必要があることから、関係機関との連携のもと、特別保護地区を取り囲む登山口へ接続する車道沿いにおいて水際の侵入防止対策を行うことを目的とする。 具体的な種としては、オオハンゴンソウ及びハルザキヤマガラシについて対応を行う。		
主な該当戦略		ファン戦略	ターゲット	尾瀬関係者
取組	状況	実施中	期間	複数年（2014 年～）
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]（小沢平登山口、津奈木一鳩待間の車道沿い、富士見下登山口手前の車道沿い ※いずれも国立公園特別保護区への接続域）		
	実施済	小沢平登山口に繁茂しているオオハンゴンソウについて、尾瀬ボランティア、尾瀬ガイド協会、福島県、檜枝岐村、新潟県、魚沼市、環境省、会津森林管理署南会津支署などに御協力いただきながら駆除活動を継続中。		

		津奈木一鳩待峠間（ハルザキヤマガラシ）は、地元関係者（東京パワーテクノロジー・NPO 法人 片品・山と森の学校）群馬県、片品村、環境省にご協力いただきながら防除活動を実施。		
		富士見下登山口手前（オオハンゴンソウ）については、これまでの駆除活動の結果、繁茂を抑制できているため、今後も経過観察を継続する。		
	2024 年度	継続実施		
	2025 年度	同上		
目 標 値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

49. 近自然工法による登山道整備				新規
実施主体		（一社）尾瀬登山道整備部	連携先	歩道管理者
目的と概要		低料金で自然に近い形での登山道の調査及び整備をおこなう。さらに活動を通じ、尾瀬のリピーターの方と一緒に活動し、ファンを増やす。そのために、尾瀬ガイド協会の人材を中心に活動を行う		
主な該当戦略		ファン戦略	ターゲット	尾瀬関係者／歩道整備に関心のある人
取 組	状況	2024 年 4 月 15 日に（一社）尾瀬登山道整備部を立ち上げ	期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬国立公園内の登山道		
	実施済	2022～2024 年度尾瀬笠ヶ岳登山道整備事業（環境省委託事業） 2024 年度燧ヶ岳・長英新道（環境省委託事業） 2024 年度一ノ瀬三平峠（群馬県 登山道整備ツアー）		
	2025 年度	旧会津街道修繕作業ボランティア参加型（片品村・三条印刷）（予定）		
	2026 年度			
目 標 値	期限	（いつまでに）	毎年	
	項目	（何を）	ファンを増やすために	
	数値	（どうするか）	ファンと一緒に宿泊をしながら登山道整備を行う 毎年 20 人・日ぐらい	

○尾瀬を学ぶ場の機会の充実

- ・ 尾瀬に対する理解を深め、愛着や誇りを醸成するために、自然体験や学習を通して、尾瀬を知り、体験する機会を充実させます。

50. 子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動				継続
実施主体		尾瀬小屋	連携先	尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会
目的と概要		児童養護施設やフリースクールに通う子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動を行う。 【魅力発信】四季折々の景色や動植物の生態、山小屋の生業、国立公園が抱える環境問題や保護への課題など、映像や写真を通して生徒様向けの講演活動や学校イベントに積極的に参加。 【取組主旨】自身が児童養護施設で過ごした経験談や、不安定な心を登山や自然に身を置く事でコントロールしてきた経験談を公演。子供達の生活環境がハンデではないという事の意識付けや、過酷な環境下で働く先生たちの心のケアも含まれる。国立公園をリアルな教育現場そのものとし、五感で感じたものを日常生活に活かしてもらいたい。 【体験造成】蛍・夜行性動物・星空観察などのナイトハイク。山岳地での夜間行動という非日常体験を味わう。夕焼けや朝焼けの観賞とヨガや体操。日本が誇る景色を見ながら、体を動かす楽しさを学ぶ。歩荷体験。重たい荷物を背負ってみる事で、恵まれた環境で過ごしている事を実感してもらう。登山道整備。草刈りやゴミ拾いを通して、守られるべき自然やマナーを身に着ける。		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	10 代男女
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬小屋）、尾瀬外（社会福祉法人、学校等） 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施済	2023 年度は、 ■7 月～8 月にかけて、東京都世田谷区にある児童養護施設の高校生の就労体験を実施。およそ一ヶ月間、3 名の高校生が山小屋で人生初めての労働を経験。 ■体験造成として、ナイトヨガ、モーニングヨガを不定期開催。		
	2024 年度	■東京都内の児童養護施設の高校生 6 名就労体験受け入れ。 ■埼玉・神奈川の居場所支援・児童養護施設長の尾瀬視察受け入れ ■児童養護施設にて講義を実施		
	2025 年度	■前年取組内容継続		
	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		

目 標 値	数値	(どうするか)		
-------------	----	---------	--	--

51. 尾瀬ネイチャーガイド養成事業				継続
実施主体	尾瀬・魚沼誘客推進協議会（新潟県 魚沼地域振興局、魚沼市、（一社） 魚沼市観光協会）		連携先	魚沼市観光協会（協議会事務局）
目的と概要	尾瀬⇄魚沼ルート利用者に対するガイド業務が継続的に行われるよう、後継者確保を目的に尾瀬ネイチャーガイドを養成する。			
主な該当戦略	ビギナー／リピーター／ファン戦略		ターゲット	トレッキング愛好家、環境保全に関心のある層（副業、第2の職業）
取 組	状況	実施中	期間	複数年（2017年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬沼他）、尾瀬外（魚沼市インフォメーションセンター）		
	実施済	尾瀬ネイチャーガイド養成講座を実施		
	2024年度	尾瀬ネイチャーガイド養成講座を実施（魚沼市内から4名が受講）		
	2025年度	実施予定		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

52. 尾瀬サステナブルプラン (尾瀬シーズンズスクール・尾瀬ネイチャーラーニング)				継続
実施主体	群馬県		連携先	
目的と概要	尾瀬の魅力を生かし、実社会での課題解決に生かす教科横断的な教育であるSTEAM教育を展開します。 ・尾瀬シーズンズスクール：民間主体によるハイクオリティなSTEAM教育の事業化に向け、事業モデル（スキーム）を検討 ・尾瀬ネイチャーラーニング：入門的なSTEAM教育の題材として尾瀬を訪れた県内外の小中学校等にガイド代等を支援（補助） ・登山道整備ツアー：利用者が尾瀬の施設の整備や環境保全活動に参加するツアーを民間企業と連携し造成して実施			
主な該当戦略	ファン戦略		ターゲット	学校や社会教育関係団体、尾瀬での学習意欲のある学生・社会人

取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]（尾瀬国立公園内、小中学校等（事前学習・事後学習）		
	実施済	尾瀬シーズンズスクール：2021 年度はモニター事業・2022 年度からモデル事業を実施。 尾瀬ネイチャーラーニング：補助事業を実施。		
	2024 年度	尾瀬シーズンズスクール：民間事業者による実施に移行した。 尾瀬ネイチャーラーニング：補助事業を実施した。 登山道整備ツアー：ツアーを実施した。		
	2025 年度	尾瀬ネイチャーラーニング：継続予定 登山道整備ツアー：継続予定		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

53. 尾瀬環境学習推進				継続
実施主体	群馬県	連携先		
目的と概要	環境学習の場としての尾瀬の利用を促進するため、山の鼻ビジターセンターにおいて、展示や環境学習ミニガイドツアー及び尾瀬ネイチャーラーニングの受け入れ協力を実施するとともに、県内の小中学校や公民館等で移動尾瀬自然教室や出前講座を開催します			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	入山者全般、小中学校・公民館	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内[公園内＋周辺]（尾瀬国立公園内）、尾瀬外（県内の小中学校、公民館等）		
	実施済	山の鼻ビジターセンターにおいて、展示や環境学習ミニガイドツアー 県内の小中学校や公民館等で移動尾瀬自然教室や出前講座		
	2024 年度	継続		
	2025 年度	継続予定		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

54. ふくしま子ども自然環境学習推進事業				継続
実施主体	尾瀬環境学習推進協議会事務局（檜枝岐村）	連携先	福島県、檜枝岐村、南会津町	
目的と概要	本県の子ども達を対象に、尾瀬の優れた自然環境の中で行う質の高い環境学習を推進し、生物多様性に対する意識の醸成を図り、豊かな自然環境を次世代に継承する。			

主な該当戦略		ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	県内の小中学校、特別支援学校
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）		
	実施済	県内の小中学校、特別支援学校が日帰り・1泊2日等で尾瀬に行き環境学習を実施。		
	2024 年度	継続実施		
	2025 年度	継続予定		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

（６）脱炭素・循環型公園プログラム

- ・ 本取組テーマでは、ゼロカーボン実現に向けた取組、資源循環に関する取組の２区分で、計４の取組を実施します。

○ゼロカーボン実現に向けた取組

- ・ 尾瀬の自然環境を次代へ継承するために、ゼロカーボンの実現に向けた取組を行う。

55. 「尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク」アクションプログラム				継続
実施主体	東京電力ホールディングス株式会社、東京パワーテクノロジー(株)尾瀬林業事業所	連携先	片品村むらづくり観光課	
目的と概要	環境省が登録認定を行う「ゼロカーボンパーク」の実効性を高めるため、2022 年度～2030 年度までの実行計画を策定。片品村が改訂を予定している「片品村地球温暖化防止実行計画」との連動により、尾瀬国立公園内の脱炭素化、および片品村村内の脱炭素化に向けたアクションプランプログラムの策定と PDCA を展開する。計画策定事務局は、片品村むらづくり観光課と東京電力ホールディングス株式会社 ESG 推進室の共同事務局により実施予定。			
主な該当戦略	ビギナー／リピーター／ファン戦略	ターゲット	ターゲットは【脱炭素や自然環境保全保護を意識した尾瀬利用者】【再エネ利用住宅など、脱炭素を指向する IU ターンの若者／子育て世代など新規片品村移住者】【既在住片品村村民の尾瀬自然環境保全活動の参加など尾瀬ボランティア化】等が特長	

取組	状況	実施中	期間	複数年（2022 年～）
	場所	（尾瀬国立公園内、尾瀬の麓の集落）、尾瀬外（片品村内全域）、 情報媒体（Web：片品村、東京電力ホールディングス（株）、東京パワーテクノロジー（株） 尾瀬林業事業所 他、実施主体）		
	実施済	尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク登録に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施 ①【登録認定】尾瀬周辺市町村のゼロカーボンシティ宣言、尾瀬国立公園のゼロカーボン パーク宣言 ②【地産地消】尾瀬の木道に FSC 認証を受けた地元カラマツ材使用 ③【リサイクル】尾瀬の木道リサイクルペーパーの積極的活用		
	2023 年度	尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク実装に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施 ①【山小屋の脱炭素化】高効率給湯器（エコキュート）導入、LED 導入、鳩待山荘建替工 事開始（再エネ電化）食事・お土産物の脱プラスチックへの取り組みを加速 ②【村内の脱炭素化、再エネ導入】尾瀬片品小水力発電所の運転開始、移住定住促進住宅 基本計画策定。		
	2024 年度	【山小屋の脱炭素化】高効率給湯器（エコキュート）導入、LED 導入、鳩待山荘建替工事 継続実施（再エネ電化）食事・お土産物の脱プラスチックへの取り組みを継続 【リサイクル】山小屋での地元食材を使った料理提供（フードマイレージ）、マイバック・ マイボトルの普及啓発、モバイルバッテリーレンタルサービスの継続		
	2025 年度	ソフト・ハード事業共に、実行委員会にて協議する（予定）		
目 標 値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

56. ゼロカーボンシティ表明とゼロカーボンパークの登録				継続
実施主体		片品村	連携先	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所
目的と概要		2022 年 2 月 22 日に表明した、温室効果ガス排出量ゼロを目指すゼロカーボンシティ「片品村 5 つのゼロ宣言 2050」に基づき、具体的な取組を推進していく。		
主な該当戦略		ビギナー／リピーター／ファン戦略	ターゲット	
取組	状況		期間	複数年（2021 年～）
	場所	国立公園内における電気自動車の活用や利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進め 脱プラスチックも含めて脱炭素 の観光地を目指すため、ゼロカーボンパーク登録を行う（登録関係書類提出済み）。		

	実施済	国立公園内における電気自動車の活用や利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進め 脱プラスチックも含めて脱炭素 の観光地を目指すため、ゼロカーボンパーク登録を行う（登録関係書類提出済み）。		
	2023 年度	委員会での取り組み等		
	2024 年度	村民向けの周知啓発イベントを複数回開催		
	2025 年度	ソフト・ハード事業共に、実行委員会にて協議する（予定）		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

○資源循環に関する取組

- ・ 尾瀬の自然環境への負荷を低減するために、循環的な利用を促進するための取組を行う。

57. 鹿の食害問題の訴求				継続
実施主体	尾瀬小屋		連携先	
目的と概要	尾瀬小屋は、「食べる」というアクションを通して、国立公園が抱える鹿の食害問題を訴えていく。 ・ 尾瀬を身近に想う方々の間では、ミズバショウやニッコウキスゲがなければ、尾瀬が尾瀬でなくなってしまうという危機感が高まる半面、尾瀬を守るために奪われた鹿の命がある事、その鹿の命を大切に活かし、人の暮らしの中で役立て、命の尊さを感じてほしい。 ・ 尾瀬の鹿は利活用される事なく食用として提供する事も叶わない状況にあるが、人間が山を楽しむ背景にはこうした命のやり取りがある事を伝えるべく、尾瀬小屋はあえて出荷制限が解除された鹿を尾瀬で「食べる」事を実現し、尾瀬鹿の食害問題を訴求する。			
主な該当戦略	ファン戦略		ターゲット	30代～50代男女
取組	状況	実施中	期間	複数年（2022年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬小屋）、 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施済	2023年度は、ジビエ料理の継続とインバウンド向けのジビエツアーを開催し、国内外に鹿の食害問題を継続的に訴求。		
	2024 年度	■日本ジビエ協会様と尾瀬鹿の食用転換に向け協議を実施。 ■ジビエ料理の提供を通して、鹿の食害問題の継続的な訴求を実施。		
	2025 年度	■前年内容継続実施		
	期限	（いつまでに）		

目 標 値	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

58. OZE BOARDWALK project（循環型印刷商品）の販売と展開				継続
実施主体		三条印刷株式会社	連携先	OZE BOARDWALK project 広報担当 高木
目的と概要		尾瀬国立公園に敷設された木道(東京電力敷地内の)を再利用し誕生した「尾瀬の木道ペーパー」を印刷用紙に指定いただくことで、印刷物でサステナブルな社会へ寄与することができる商品を提供。パンフレットやリーフレット、ポスター、名刺等へのご指定で、クライアントに付加価値の高い印刷物の提供が可能とする商品の販売です。 尾瀬の木道ペーパーによる循環型印刷商品の提供は新潟県内初であり、また、印刷用紙にかかる費用の 6%（お客様 3%＋三条印刷 3%）は、尾瀬国立公園の保全活動に役立てていただく支援金として還元いたします。		
主な該当戦略		ファン戦略(法人・個人の CSR 活動の一環として)	ターゲット	環境保全に取り組む企業や尾瀬ファンの個人・団体など
取組	状況	実施中	期間	2022 年 8 月 1 日より毎年実施
	場所			
	実施済	2022 年…檜枝岐村・福島県清掃協議会 尾瀬支部さまへ寄付 2023 年…魚沼市・尾瀬ルート活性化委員会さまへ寄付		
	2024 年度	片品村・尾瀬登山道整備部さまへ寄付予定		
	2025 年度	継続予定		
目 標 値	期限	(いつまでに)	毎年実施予定	
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

尾瀬フェア@OutdoorVillage 報告書（概要版）

【イベント概要】

目的：尾瀬の魅力を PR し、新規ファン獲得を目指す

主催：尾瀬保護財団

日時：令和 6 年 6 月 22 日(土)～23 日(日)

会場：モリパーク アウトドアヴィレッジ（東京都昭島市）

＊ 2 日目は悪天候のため屋内会場

来場者数：約 2,400 人



【主な出展内容（屋外会場並び順）】

- 尾瀬保護財団：スタンプラリー、福引（山小屋宿泊券 17 枚を賞品として贈呈）、尾瀬案内、カード作り
- 群馬県：VR ゴーグル尾瀬体験
- 尾瀬高校：学習成果発表、Google Earth 展示
- 片品村・片品村観光協会、南会津町、檜枝岐村：パンフ配布、観光案内等
- 魚沼市・魚沼市観光協会：パンフ配布、商品販売
- 福島県：ミズバショウの折り紙、情報発信
- OZE BOARDWALK プロジェクト：鹿革アクセサリー作り、PR 動画
- 尾瀬歩荷：歩荷体験、歩荷グッズ販売
- 東京電力グループ：木道模型展示、バードコール作り、プチ講座

【成果】

- 来場者からは高評価（大変満足 75%、満足 25%）
- 関係団体同士の同じ目標に向かった協働
- 尾瀬 PR イベントの核となるコンテンツの明確化
- 新たなボランティア活動フィールドや財団のパートナーシップ形成

【意見、要望、反省等】

- 尾瀬に行ったことのある来場者が多かった
- 出展団体からの意見収集が不足していたとの意見あり
- チラシ作成等の準備スケジュールを前倒しすべきとの意見あり
- 食の提供、ステージイベントについての要望あり（運営委託が必要）
- 不慣れで準備、運営に不十分な点があった点は、今後の反省材料として活かしたい
- 今後も財団でネット、リアル両面から尾瀬 PR を行うので引き続きご協力いただきたい





ふくしま尾瀬の取組について

(令和6年度)

ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

2025年1月

福島県自然保護課

1 尾瀬国立公園利用アクションプランの位置づけ

(3) 尾瀬の利用における課題と対応の必要性

4. 尾瀬の魅力を訴求するプロモーションの強化

- 雄大で豊かな自然が残る尾瀬は、見る人に美しさや心地よさ、くつろぎを感じさせてくれるなどの価値を有しており、現状、首都圏をはじめ全国から利用者が来訪しているものの、国内旅行市場全体では、尾瀬の認知度、来訪経験率、再訪意向のいずれもが低下傾向にあり、尾瀬の普遍的価値を知る人自体が少なくなっています。
- また、尾瀬には、3つのアプローチ（3県からのアプローチ、3つの最寄り駅、3つの移動手段（自家用車・バス・遊覧船））、2つのゲートタウン（片品村・檜枝岐村）、6つの主な入山口や様々な登山道、さらに宿泊・立ち寄り利用できる複数の山小屋や2つのビジター、利用施設が集積する複数の地区があります。
- しかし、現状では、尾瀬全体としての魅力の発信が十分ではなく、また、それぞれの持つ個性、特徴など尾瀬が有する多様な利用の魅力をも十分に伝えられていない状況にあります。
- 今後は、尾瀬全体の魅力を構成するこれらの個性化をさらに進め、特徴をより明確にしていくことで、尾瀬の魅力の本質を訴求するプロモーション強化が必要となります。

表 6 取組一覧表（利用 AP 策定時点）

(3) 魅力的プロモーション実施プログラム

尾瀬のイメージの発信 No.2 9 スタートアップふくしま尾瀬事業 No.3 0 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

取組プログラム	No.	テーマ	取組名称	実施主体	状況
(3) 魅力的プロモーション実施プログラム	26	尾瀬のイメージの発信	グルメを通じた国立公園の魅力発信	尾瀬小屋	継続
	27		片品・檜枝岐・魚沼・南会津共同の登山口でのPR活動事業	一般社団法人片品村観光協会	協議中
	28		Instagramキャンペーン（フォトコンテスト）	（公財）尾瀬保護財団	継続
	29		スタートアップふくしま尾瀬事業（情報発信事業）	福島県	完了
	30		ふくしま尾瀬魅力発信強化事業	福島県	継続

※尾瀬国立公園利用アクションプランより

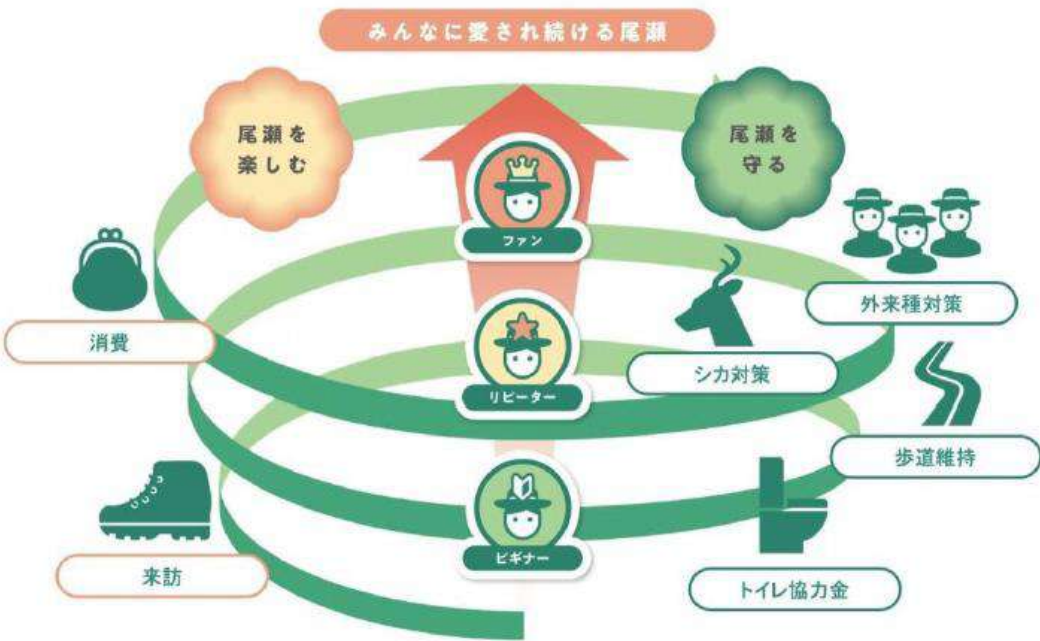


図 47 尾瀬ファンベース戦略の全体イメージ

R6年度ふくしま尾瀬の取組について

福島県自然保護課

ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

福島之宝である尾瀬を大切に保護する一方、多くの人びとに訪れていただきたく、福島県側から尾瀬に入山する一帯及びその地元町村を含めて令和4年度からふくしま尾瀬魅力発信強化事業を展開しています。

体験型のイベントや情報発信を行い、尾瀬を訪れるきっかけ作りをおこなっています。

▲「ふくしま尾瀬」

福島県側にある尾瀬国立公園とその玄関口となる檜枝岐村及び南会津町の自然や文化の体験を目的としたネイチャーツーリズム。

※平成30年～令和3年度まで実施していた「スタートアップふくしま尾瀬事業」の後続事業であり、今年で3年目となります。

R6年度
イベント



春に
ふくしま
ふくしま尾瀬 情報発信イベント/
ふくしま尾瀬に行こう！

1 イベントの構成

- ① フォトコンテスト
- ② 首都圏プロモーション
- ③ その他情報発信



① フォトコンテスト



開催概要

福島県は、「ふくしま尾瀬の絶景や旅の思い出を投稿しよう!」をテーマとしたフォトコンテストを開催します。受賞作品は、東武フォトコンテスト協賛掲載ページにおいて掲載いたします（2024年12月下旬頃を予定）。

主催：福島県生活環境部自然保護課

■フォトコンテスト概要

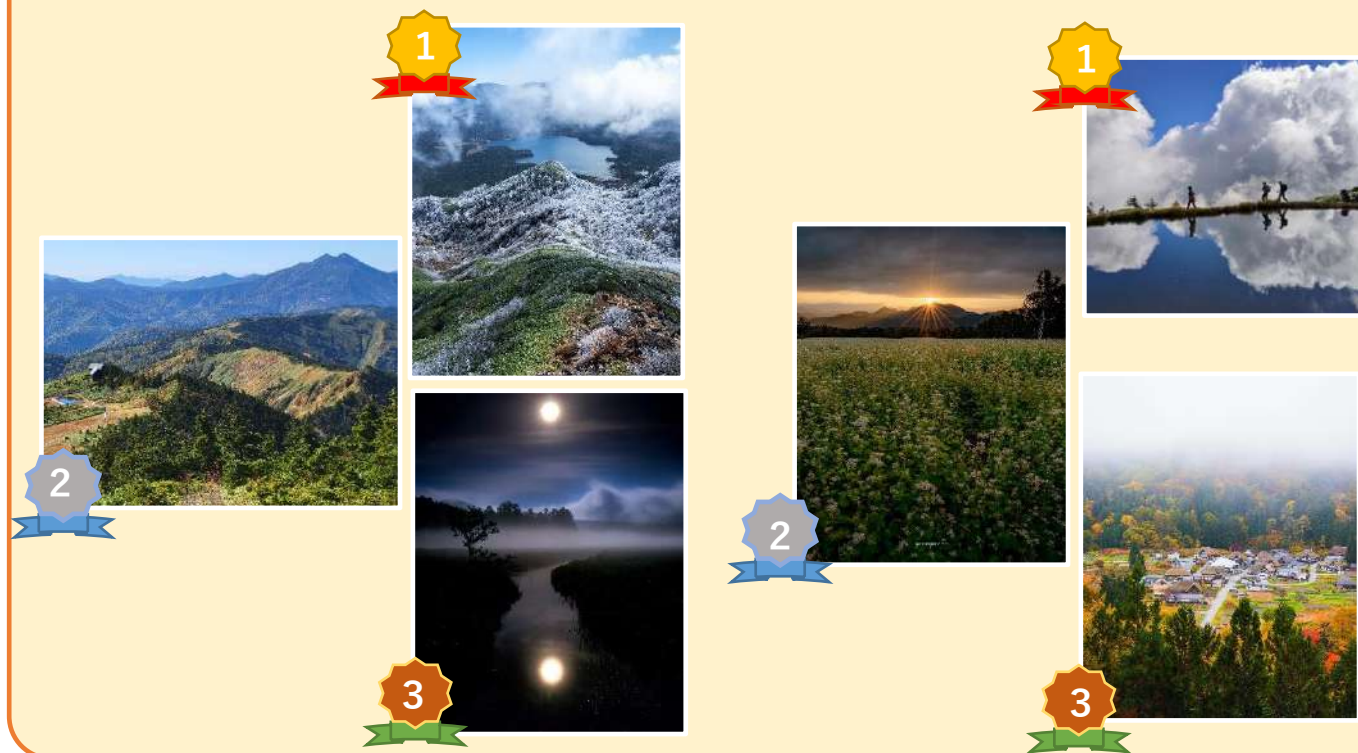
応募部門 「絶景！ふくしま尾瀬・山岳自然部門」
「また来たくなる！思い出・地域の魅力部門」
各 賞 各部門ともゴールド、シルバー、ブロンズ賞 1
特別賞「ふくしま尾瀬」賞 1
特別賞「東武トップツアーズ」賞 1
佳作 5

受賞作品

【絶景！ふくしま尾瀬・山岳自然部門】

応募作品数 505点

【また来たくなる！思い出・地域の魅力部門】



■告知 東武鉄道と連携した交通広告の実施



池袋駅 スーパーワイドボードⅡ (20枚掲示)



東武鉄道 中吊り



池袋駅 スーパーワイドボードⅠ (20枚掲示)



池袋駅 プリズムボード (東上線ホーム柱) (22枚掲示)



■受賞作品の活用

受賞者特典として制作する中吊り広告にて、ふくしま尾瀬の魅力を広く情報発信する。

●写真の掲出場所

東武鉄道車両内中吊り

1月20日（月）～2月2日（日）

- ・東武鉄道：南栗橋駅～押上駅（中央林間駅間）
- ・東京メトロ半蔵門線：押上駅～渋谷駅
- ・東急田園都市線：渋谷駅～中央林間駅

池袋駅南口イベントスペース

- ・ラウンドボード

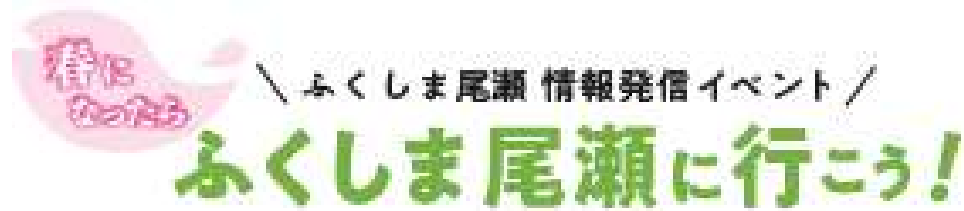
1月27日（金）～2月2日（日）

- ・イベント「ふくしま尾瀬に行こう！」

2月1日（土）・2日（日）



② 首都圏プロモーション



■ イベント概要

2月1日（土） 10時から17時

○トークイベント

モデル菖蒲綾乃（しょうぶあやの）さん
×ランドネ編集長が語る「ふくしま尾瀬」

2月2日（日） 10時から16時30分

○トークイベント

関東地方環境事務所×尾瀬保護財団
テーマ「尾瀬の自然環境を考える」
南会津町×檜枝岐村
テーマ「地域の魅力発信」

両日

○自然保護課・尾瀬保護財団ブース

尾瀬の自然環境について考えてみよう！

○物産展

南会津町、檜枝岐村、日本橋ふくしま館ミデッテ

○ふくしま尾瀬フォトコンテスト作品展示

過去3年分の作品を展示

今年度初めてふくしま尾瀬の単独イベントを、池袋駅にて開催します。

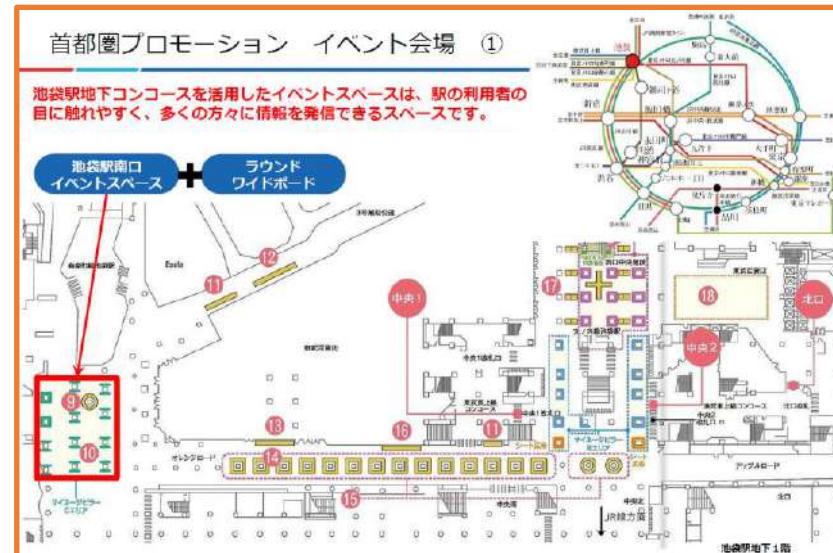
ふくしま尾瀬エリアの関係町村（南会津町様、檜枝岐村様）、関東地方環境事務所様、尾瀬保護財団様にご協力いただき、地域の魅力を発信します。

※報道発表は1月16日を予定としております。

●開催場所

池袋駅南口イベントスペース

■その他首都圏PR



- ・PR動画配信
(モデル：菖蒲綾乃さん出演)
- ・県広報課と連携
JR駅構内イベントポスター掲出
メトロミニッツ12月発行号
記事掲載。

③ その他情報発信

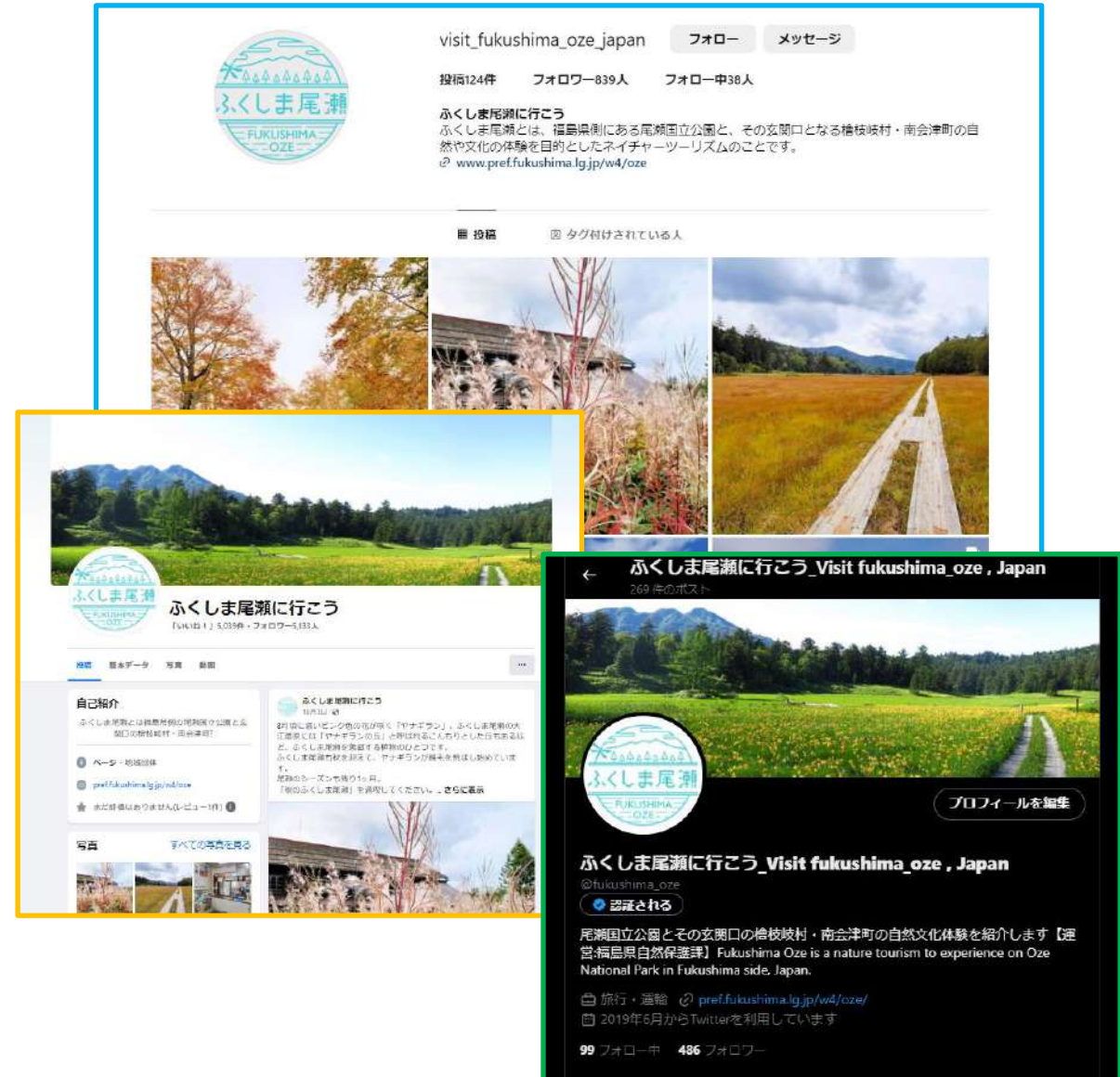
●「ふくしま尾瀬」ホームページ



●コラム配信



●SNS配信 (Twitter・Instagram・X)



尾瀬登山道整備ツアー2024

(YAMA LIFE CAMPUS 尾瀬トレイルワーク編) について

群馬県自然環境課尾瀬保全推進室

- ・尾瀬国立公園において、保全と利用が持続的に循環する新たな仕組みを構築するため、旅行会社と連携して利用者参加型の登山道整備ツアーを造成。
- ・将来の民間主体での事業展開を目標に、令和6年度は県委託事業（委託先：クラブツーリズム(株)）として実施。
- ・本ツアーは8月から10月の3か月にわたり、県が管理する大清水から尾瀬沼にかけての登山道を対象に、オンラインや現地での講習を計8回実施するもので、尾瀬の植生や歴史を学びながら木道修繕などの保全活動に参加できることが特徴。

ツアー日程（令和6年8月～10月）

【8月】「尾瀬を知り、みんなで整備を考える」

オンライン講習：8月1日

オンライン講習：8月8日

フィールド講習（ツアー）：8月17日～18日

【9月】「外来種駆除と水場（排水）整備」

オンライン講習：9月5日

フィールド講習（ツアー）：9月14日～15日

【10月】「木道修繕・もっと美しい尾瀬に」

オンライン講習：10月17日

フィールド講習（ツアー）：10月25日～27日

オンライン講習：10月31日

ツアー料金

合計99,000円（税込）

第1回 旅行代金：25,000円（税込）

第2回 旅行代金：25,000円（税込）

第3回 旅行代金：49,000円（税込）

講師

一般社団法人尾瀬登山道整備部 館山 美和様・小林 慎治様

参加者

8名（男女各4名）

年代は30代～60代。県外からは静岡、千葉、京都、東京、神奈川の方に参加いただいた

尾瀬登山道整備ツアー2024

(YAMA LIFE CAMPUS 尾瀬トレイルワーク編) について

群馬県自然環境課尾瀬保全推進室

整備前後 (水場整備・エニシダ駆除・木道修繕)



ツアーの様子



参加者の感想

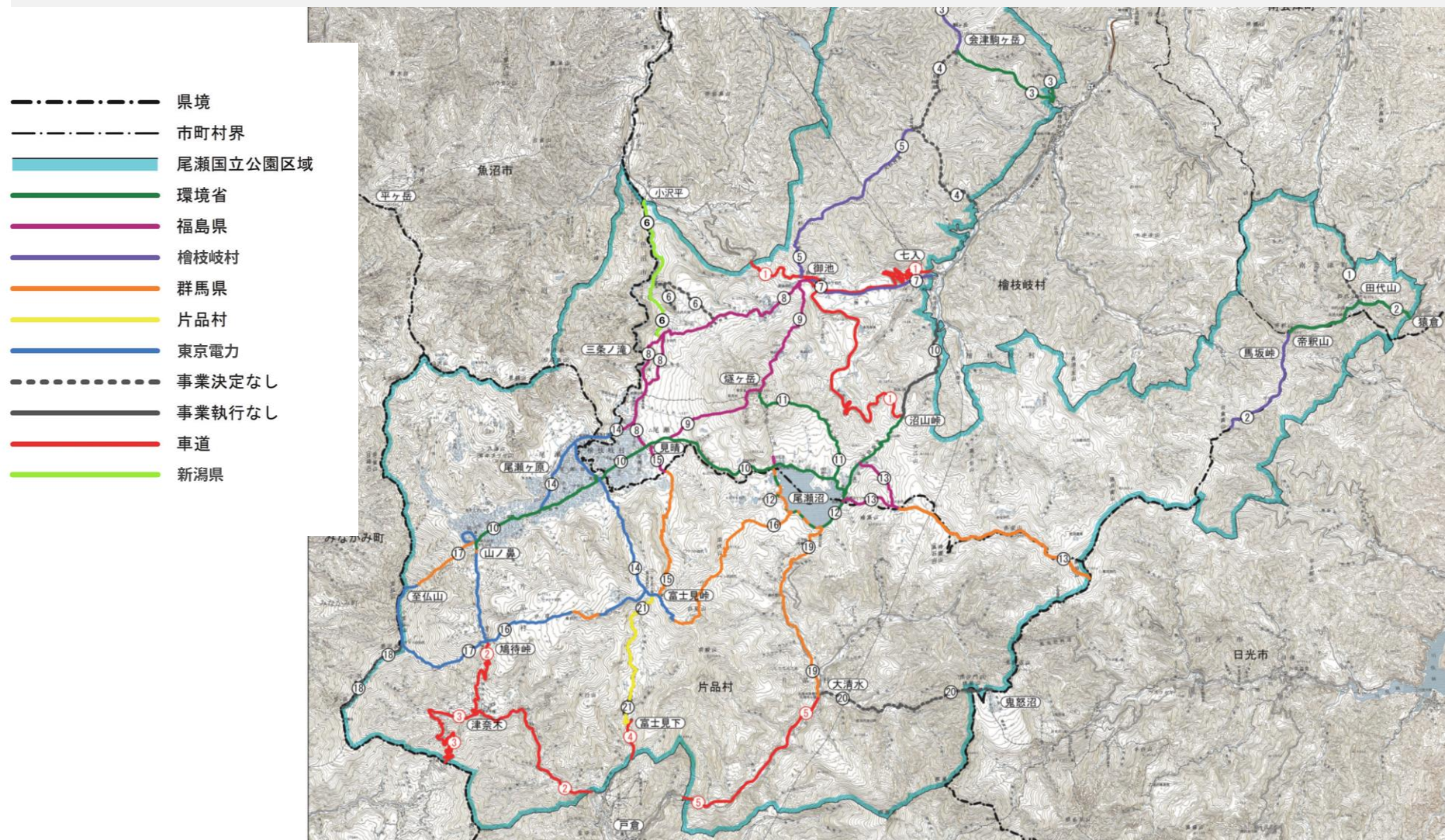
- ・自分では気づかない視点や見方を知ることができて良かった
- ・自然観察から始まり、最後に道をなおすというプログラムの順番も良かった
- ・自分で登山道等について考えるきっかけとなった
- ・想像以上に得るものも多かった
- ・こういう機会があれば参加していきたい
- ・改めて尾瀬っていいなと思えた 等

持続可能な歩道のあり方検討について

尾瀬国立公園歩道のあり方検討会

尾瀬国立公園における歩道の現状

- 尾瀬国立公園には21の路線（約160km）が歩道事業として計画されており、そのうち17路線（約130km）が事業執行され、各執行者による整備・維持管理が行われている。
- 木道は尾瀬全域に約56kmが敷設されている状況である。



尾瀬国立公園における歩道の課題

- 近年、公園利用の要でもある歩道（木道・登山道）等の再整備・維持管理が困難になっており、一部では荒廃した施設が各地に残地され、公園利用上危険な状況が見られている。
- 公園利用者に対する意識調査（アンケート）においても、登山道に関する満足度が比較的低く評価されている他、歩道改善に関する意見が多数寄せられている。
- こうした課題に対応するべく、各歩道事業執行者を中心に「尾瀬国立公園歩道のあり方検討会」を設置し、課題解決に向けた検討を行っていくことを令和6年3月の尾瀬国立公園協議会において合意。



老朽化した木道



浸食が進んだ登山道



壊れた階段

尾瀬登山に対する満足度と再訪意向（調査Ⅰ・Ⅱ）

【満足度】

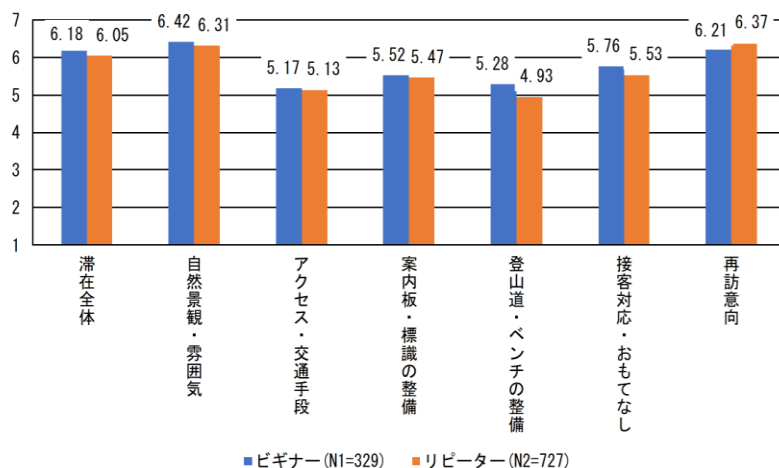
7：とても満足

～1：とても不満

【再訪意向】また訪問したい？

7：大変そう思う

～1：まったく思わない



2023年度利用者満足度調査結果 出典：環境省

尾瀬国立公園歩道のあり方検討会について

尾瀬国立公園歩道のあり方検討会（事務局：環境省関東地方環境事務所）

●目的（設置要綱より抜粋）

尾瀬国立公園の歩道（木道、登山道等）の持続可能な整備・管理を実現するために、歩道事業執行者をはじめとする関係機関が連携して必要な取組を実施することで、新たな植生荒廃の発生等を防ぐこと及び安全で快適な利用環境を実現することを目的とする。

●構成員

歩道事業執行者（環境省、福島県、群馬県、新潟県、檜枝岐村、片品村、東京パワーテクノロジー（株））
土地所有者（林野庁関東森林管理局、東京電力リニューアブルパワー（株）、三井物産（株））
その他歩道所在自治体（南会津町、魚沼市）
その他関係組織（東京電力ホールディングス（株）、尾瀬ルート活性化委員会、（公財）尾瀬保護財団）

●有識者

塩谷英生先生（国学院大学観光まちづくり学部教授）
山本清龍先生（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

➤ 令和7年2月21日(金)に第1回検討会を開催し、今後の取組の方向性について議論を行った。

課題の把握及び今後の取組の方向性

- 歩道事業執行者へのヒアリングを実施し、聴取した課題についてグルーピングを行った結果、大きく4つの課題に整理された。
- 1～3について、解決に向けた公園全体での取組を実施していくことで合意した。

1 整備・維持管理の方針に関する課題

└方針の必要性

2 資金に関する課題

└資金の不足

└組織外からの資金獲得

3 従事者に関する課題

└施工業者(受注者)の人手不足

└ボランティア等の人手不足

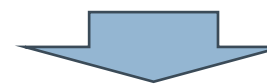
4 その他の課題

└発注者側の人手不足

└手続きに関する課題

取組の方向性

①整備・維持管理の方針の明確化



まず①に取組み、
次に②③を実行

②不足する資金の確保



③不足する従事者の確保

今後の取組の方向性：①整備・維持管理の方針明確化

《各事業執行者の方針に対する考え》 ※ヒアリングより

方針の 必要性

- ①公園全体での統一的な考え方から、各路線のあるべき姿を導き出すことが必要
- ②資金や従事者の議論は方針があった上で展開されるため、先に土台となる方針が必要
- ③利用者や関係者等への対外的な説明、問題が生じた際等の根拠が必要
- ④方針には、整備の際に依拠する考え方と水準、維持管理における「望ましい歩道の状態」が必要
- ⑤統一的な考え方と水準を共有した上で、最終的には各事業執行者が主体的に取り組むことが必要

尾瀬国立公園 歩道整備・維持管理方針（仮称）の作成

<方針の概要>

- 歩道の整備・維持管理に係る基本的な考え方を整理。
- 各路線の望ましい整備・維持管理の水準を定める。

〇スケジュール（目標）

- R7年度：方針の作成、必要な資金・従事者の算出
- R8年度：必要に応じて方針を修正
- R9年度以降：望ましい水準達成状況のチェック

今後の取組の方向性：②③不足する資金及び従事者の確保

効果的な資金及び従事者確保の取組の検討・実行

- 引き続き検討を行い、①の方針を踏まえて実行

《現時点で検討し得る方向性》

○資金の確保

- 安定的な資金確保に向け、公園全体又は執行者ごとに、資金確保の新たな取組や既存の取組の継続・拡充を検討（ふるさと納税、クラウドファンディングの活用等）
- なお、利用者負担の仕組みの導入については、別の場で議論することを想定

○従事者の確保

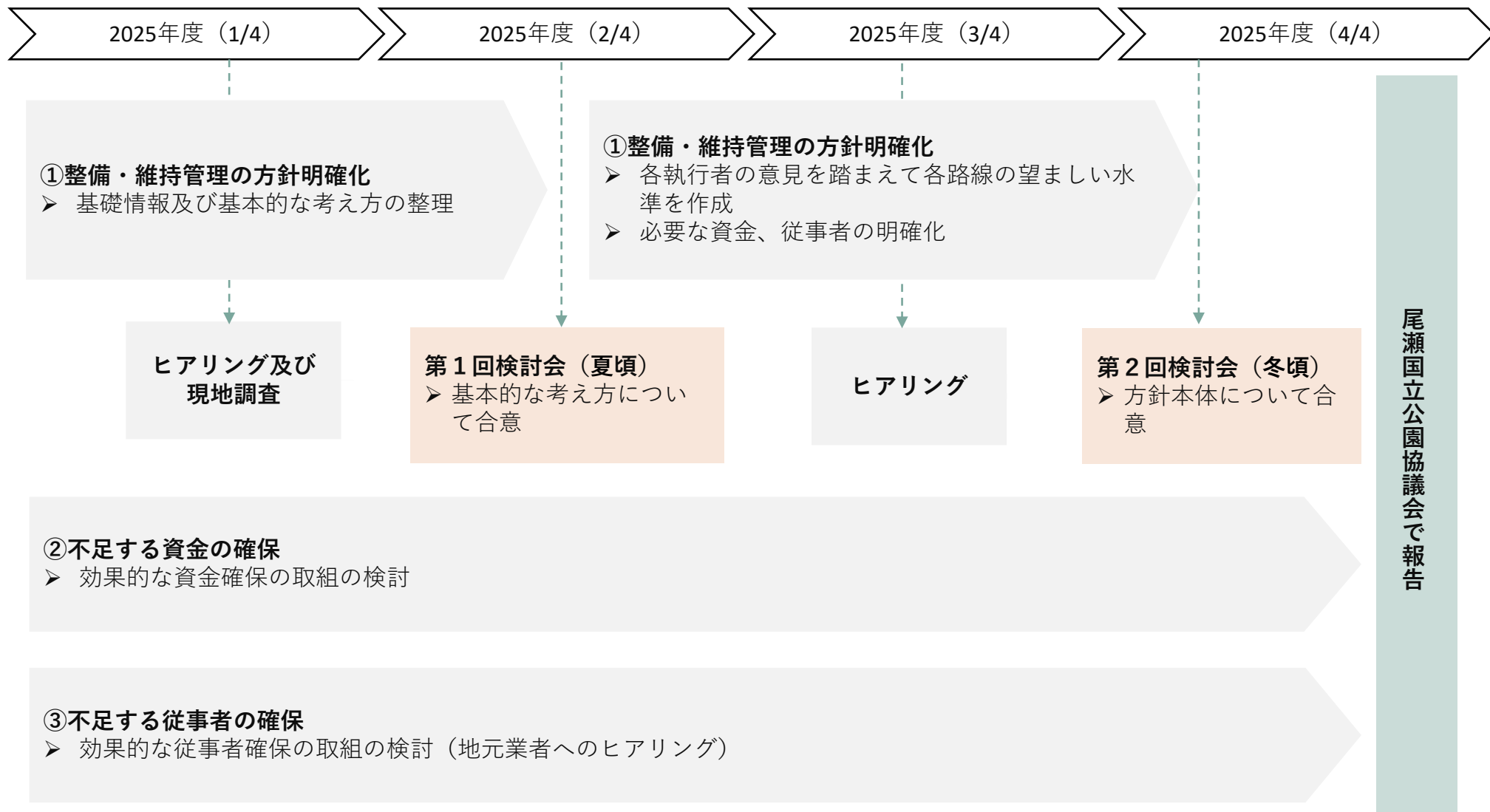
- 公園全体での木道等再整備の計画（見込み）を地域の事業者に対して提示することを検討
- 地域おこし協力隊を活用した従事者育成について検討
- 企業・一般ボランティアの活用促進、イベント・ツアー化※による人手確保を検討
※尾瀬国立公園内では既に官民連携での登山道整備ツアーが実施されている

○スケジュール（目標）

R7年度：効果的な取組の検討

R8年度以降：取組の試行、効果検証

2025（令和7）年度の検討スケジュール（目標）



中期的な検討スケジュール（目標）

R7（2025）年度

①整備・維持管理の方針明確化

- 歩道整備・維持管理方針（仮称）の作成
- 必要な資金、従事者の明確化

R8（2026）年度

- 必要に応じて方針（仮称）を修正

R9（2027）年度以降

- 望ましい水準の達成状況のチェック

②不足する資金の確保

- 効果的な取組内容の検討

- 取組の試行、効果検証 等

③不足する従事者の確保

- 効果的な取組内容の検討

- 取組の試行、効果検証 等

※方針の進捗管理及び取組の効果検証等のために、本検討会もしくは後継の会議体を年1回以上開催していくことを想定

尾瀬国立公園 ／ 新たな利用者負担による公園維持管理手法等の検討実証

1 群馬県の検討状況～尾瀬国立公園の課題と解決策～

【現状】

- ・ 少子高齢化や人口減少等の社会経済状況の変化による**国や自治体の厳しい財政状況**
- ・ 入山者の減少や経営者の高齢化に伴う、**遭難救助や登山道整備の現場で重要な役割を果たしてきた山小屋などの厳しい経営状況**
- ・ 複数の県域にまたがる**多様な管理者**の合意形成による**参加型管理運営体制（尾瀬国立公園協議会）**

【課題】

- ・ **財源不足***
- ・ 財源不足による**整備不足**を要因とした**魅力低下**

*歩道再整備にかかる費用

複線で1m約20万円（2024.3.4 第22回尾瀬国立公園協議会より）

*利用者の協力金等への支払意思の高まり（アンケート、聞き取り）

【着眼点】

尾瀬をもっと魅力的な場所にしていくための
「**保護と利用の好循環**」実現

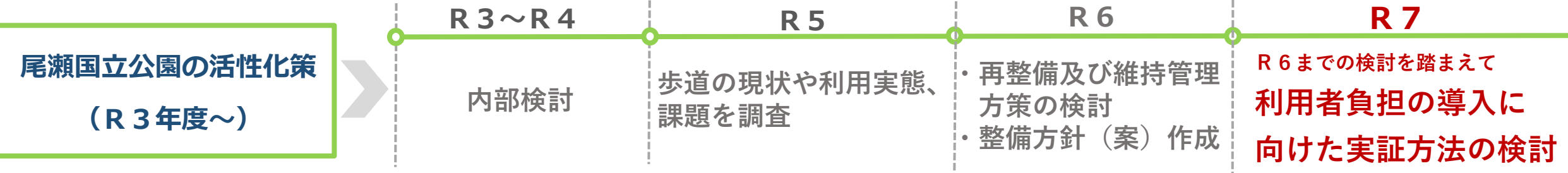
【解決策】

- ① **新たな利用者負担による財源確保**
（入域料等の任意の協力金を想定）
- ② **参加型管理運営体制（尾瀬国立公園協議会）を活かした検討体制**

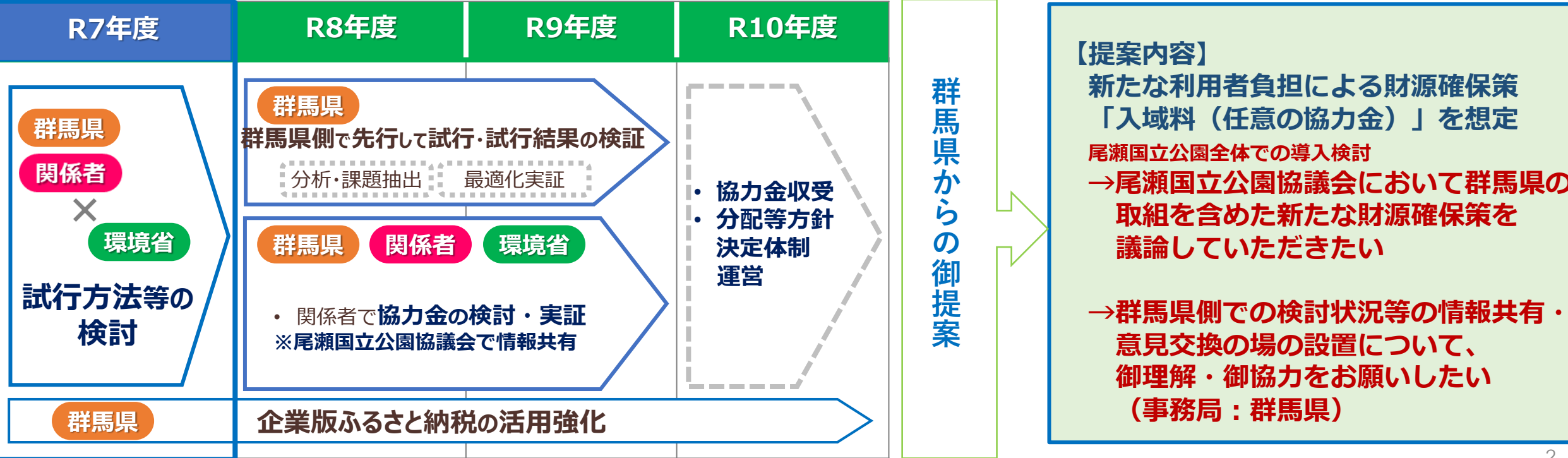


2 群馬県の検討の状況

(1) 群馬県における尾瀬国立公園活性化策の検討の経緯



(2) R7年度以降の「新たな利用者負担」の検討及び実証の方向性



「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針」の 改訂について

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会
事務局：環境省関東地方環境事務所

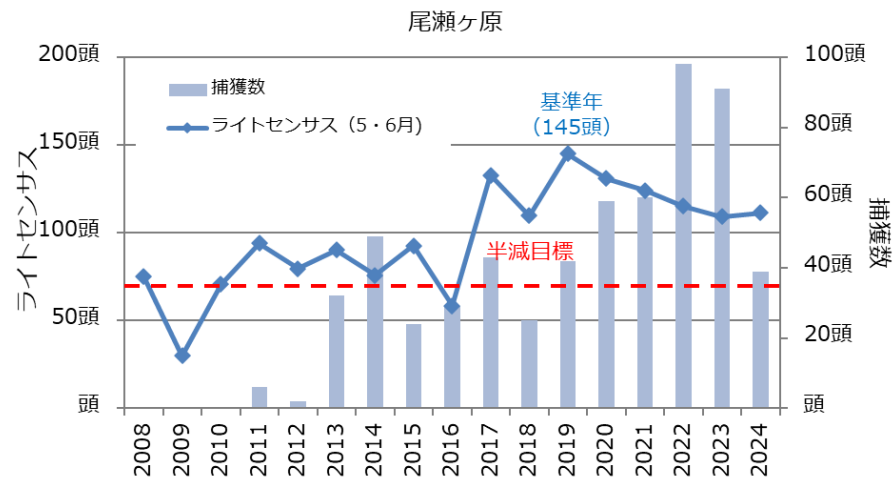
「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針」について

経緯

- ニホンジカの増加・分布域の拡大と、ニホンジカの個体群が冬は日光地域、夏は尾瀬地域と広域移動する特性を踏まえ、関係機関が連携して対策を実施するため、令和元年8月に「**尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会**」を設置。
- 当該協議会において、**令和2年1月に「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針」を策定**。最終目標や**5年目途の事業目標**を掲げ、「捕獲」「植生保護」「モニタリング」等の方針を定めた。
- 対策方針に「5年を目途に、モニタリング結果や対策の結果を総合的に検証し、本対策方針の見直しを行う」と規定されていることを踏まえ、本年、**対策の効果検証と改訂**を進めている。

対策の効果と課題

- 植生保護の優先度が高い「優先防護エリア」A及びBランク11か所中、**10か所（※）に植生保護柵の設置が完了した**。一部の植生保護柵内では、被害低減と植生回復が確認されている。
（※残り1か所は、有効性の観点からモニタリングを継続することとした。）
- 尾瀬ヶ原の**シカ捕獲数は増加傾向**にあり、**生息密度も減少傾向**にある。一方、「尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を**概ね半減**させる」こととした**事業目標は達成できなかった**。
- **多くの地域において植生回復は見られず**、シカによる被害の深刻化が懸念されるため、**広域連携によるシカ対策の一層の強化を図る必要**がある。



対策方針2025改訂(案)のポイント

1.数値目標の設定

- 湿原と森林それぞれ、短期目標（2029年度）、長期目標（2038年度）を「シカ生息密度」、「ニッコウキスゲ等の被害株数」等、定量的な指標で設定。
- 構成員がモニタリングに努め、対策の進捗確認や効果検証を行う。

2.植生保護の実施方針：優先防護エリアの再評価

- 植生被害の状況、希少種等の生育状況、地形・環境によるアクセスのしやすさ等を基に、優先防護エリアの再評価を実施。
- ランクAは11か所、ランクBは21か所となった。新たにランクAとされた「平滑ノ滝」「三平峠付近」「中ノ原山湿原」「至仏山登山道沿い」の4か所は、構成員で協議の上、2029年度までに植生保護柵を設置する。
- 植生保護柵の設置者は、柵内への侵入個体数の把握に努め、柵の破損が見られた場合には速やかに修繕する等の対策を講じる。

3.捕獲の実施方針

- 保全対象（地域）ごとに、時期や手法を定め、連携して捕獲を実施する。

保全対象（地域）		捕獲時期	捕獲手法
尾瀬国立公園 区域	①尾瀬ヶ原・ 尾瀬沼周辺	5～6月	銃器
	②高山地域	6～7月	くくり罠又は銃器
奥日光地域		5～6月	くくり罠（誘引餌併用）
移動経路及び 越冬地	①移動経路	3～5月 10～12月	くくり罠 （3～4月が銃器と組合わせ）
	②越冬地	12～3月	銃器又は囲い罠

今後のスケジュール

- 現在、事務局（環境省）において、改訂案の最終確認を実施中。構成員への協議を経て、年度内に改訂を行う予定。
- 引き続き、ニホンジカ対策への連携・協力をお願いしたい。

会津沼田街道の魅力向上について

檜枝岐自然保護官事務所

会津沼田街道の解説標識整備の経緯

尾瀬の利用者数が減少傾向にある中で、
これまでと異なるアプローチでの利用の必要性が高まる



令和2年に会津沼田街道の歴史・伝統・文化的な資源を守り・楽しみ・伝えることを目標とした「会津沼田街道魅力向上プラン」が檜枝岐村・片品村を中心に策定された

1600年代から続く会津地域と沼田地域の交易路である「会津沼田街道」を用いて歴史・伝統・文化的な側面も含めて尾瀬をPRすることが検討された



①「会津沼田街道魅力向上プラン」の一環として、会津沼田街道の歴史・伝統・文化的な資源を尾瀬で伝える媒体として、「解説標識」の整備を令和5年度より検討している

令和6年度 観光庁の多言語解説整備支援事業に採択され、現地取材等を経て英文を作成した。日本語文作成後、令和7年度より各標識の位置する歩道の執行者ごとに整備等を行う予定である。

会津沼田街道の解説標識設置予定箇所

- 標識整備区域：大清水～七入
- 表示言語：日英併記
- 標識分類：総合案内標識・解説標識の2種
- スケジュール・令和6年度 設置位置・表示内容等の決定と併せて、解説内容の英文（観光庁多言語解説事業を活用）＋日本語文を整理・令和7年度～設置者【】が順次標識等を整備（国立公園等多言語解説等整備事業等活用予定）

①大清水ゲート付近【群馬県】
街道の概要（総合案内）
街道の、文化・利用・自然保護での重要性を記載

②一ノ瀬【群馬県】
一ノ瀬の歴史（解説）

③十二曲下【群馬県】
車道開発計画と保護運動（解説）

④山神宮（十二様）【群馬県】
街道と十二様の関係（解説）

⑤三平下【環境省】
街道を使った両村の交易（解説）
（さかい沼・振り分け沼含む）

⑥長蔵小屋無料休憩所前広場【環境省】
大下藤次郎と尾瀬の啓発（解説）

⑦長蔵小屋無料休憩所裏のデッキ【環境省】
ダム開発計画と保護運動（平野長蔵氏・武田久吉氏）（解説）

⑧沼vc前【環境省】
街道の概要（総合案内）

⑨第2テラス付近【環境省】
三本カラマツ（解説）
尾瀬大納言の伝説

⑩大江湿原第2橋付近【環境省】
尾瀬の動植物と人の関わり
（牧野富太郎等の研究や魚の利用）

⑪会津戊辰戦争の土塁跡【環境省】
（解説）

⑬沼山峠休憩スペース【環境省】
昔の焼山と現在の比較（解説）

⑭七入 山の神【檜枝岐村】
街道と山の神の関係（解説）

⑫沼山峠入口【檜枝岐村】
街道の概要（総合案内）
街道の、文化・利用・自然保護での重要性を記載

河童橋 / Kappa-bashi Bridge

富士見下

～ 標識整備イメージ（日英併記）～

①大清水ゲート付近（街道の概要）

看板タイトル「片品村と会津沼田街道」

↑ 写真撮影方向



既存の看板に
会津沼田街道
の内容の盤面
を追加

設置位置



<主な記載内容>

街道の全体的な概要。
片品村側での街道の
利用方法など。

【設置予定位置】

④山神宮（十二様）

看板タイトル

「山の神様 十二様」

＜主な記載内容＞

山の神様である十二様と村人の関わりの記載（神の使いとされるオコジョが出たときは木を切らないなど）。

新規の看板設置



設置位置



↑ 写真撮影方向

【設置予定位置】

②一ノ瀬（一ノ瀬の歴史）

看板タイトル「一ノ瀬」

↑ 写真撮影方向



新規の看板設置



一ノ瀬休憩所

トイレ

設置位置

＜主な記載内容＞
明治期に盛んだった柳沢等での林業の内容や昭和30年代に盛んだった一ノ瀬の観光利用の話。

【設置予定位置】

③十二曲り下（車道開発計画と保護運動） 看板タイトル「車道開発計画」

↑ 写真撮影方向



<主な記載内容>

両村を結ぶ車道開発計画について、平野長靖氏らがどのような理由から反対し、最終的に計画が止まったかをまとめる。



【設置予定位置】

⑤三平下

看板タイトル
「会津と上州の交易」

<主な記載内容>
江戸時代からの両
村の交易やそれを
示す寛永通宝の説
明。

新規の看板設置

↑ 写真撮影方向



設置位置

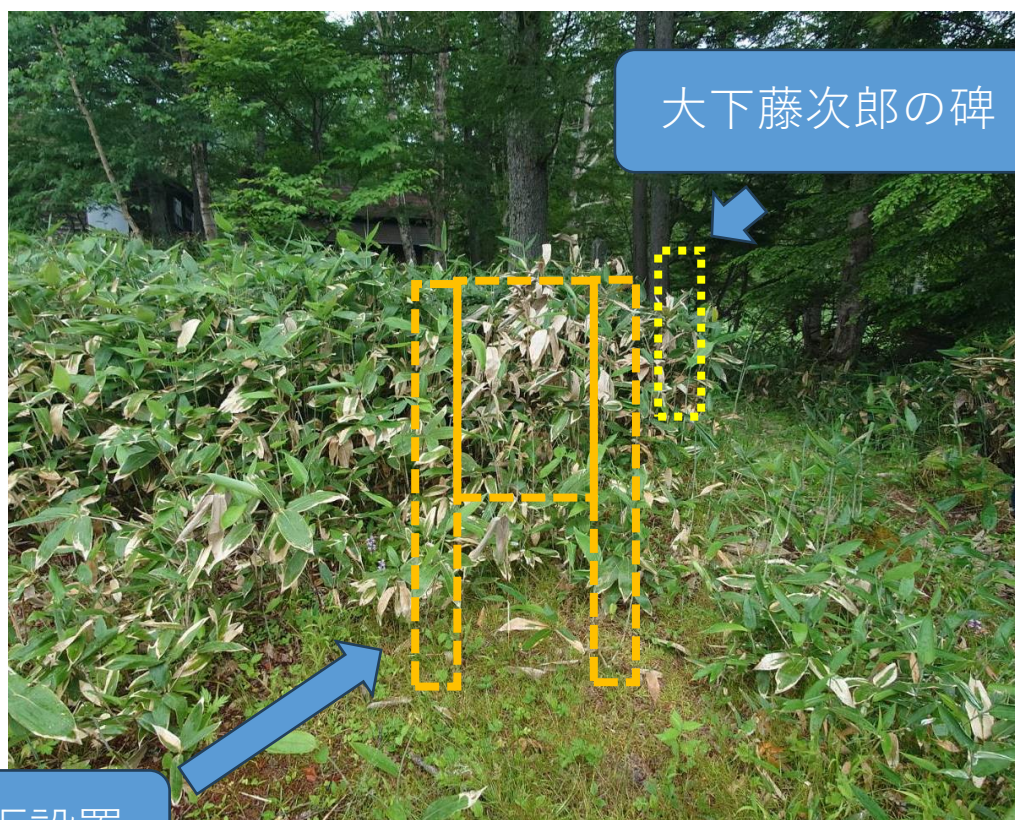


【設置予定位置】

⑥長蔵小屋無料休憩所前広場（大下藤次郎氏）

看板タイトル「平野長蔵と大下藤次郎」

↑ 写真撮影方向



大下藤次郎の碑

新規の看板設置

＜主な記載内容＞
平野長蔵氏が尾瀬
に関わるきっかけ
と画家大下藤次郎
氏が尾瀬を明治時
代に普及啓発した
ことをまとめる。



設置位置

30 m

【設置予定位置】

⑦長蔵小屋無料休憩所裏のデッキ（ダム開発計画と保護運動）

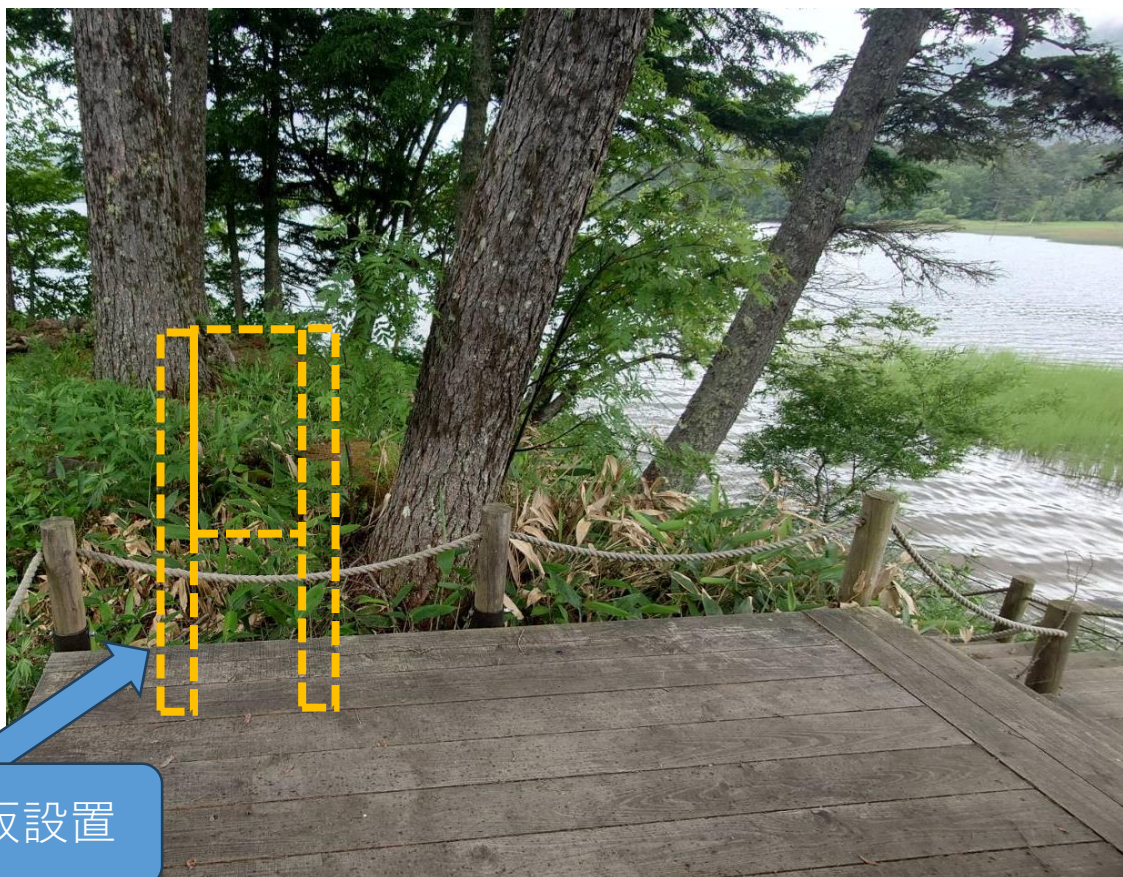
看板タイトル「尾瀬沼仙人 平野長蔵」



写真撮影方向

地面に
固定する

新規の看板設置



<主な記載内容>
平野長蔵氏がダム
開発計画への反対
運動や、燧ヶ岳と
の関係性

設置位置



【設置予定位置】

⑧沼VC前（街道の概要）

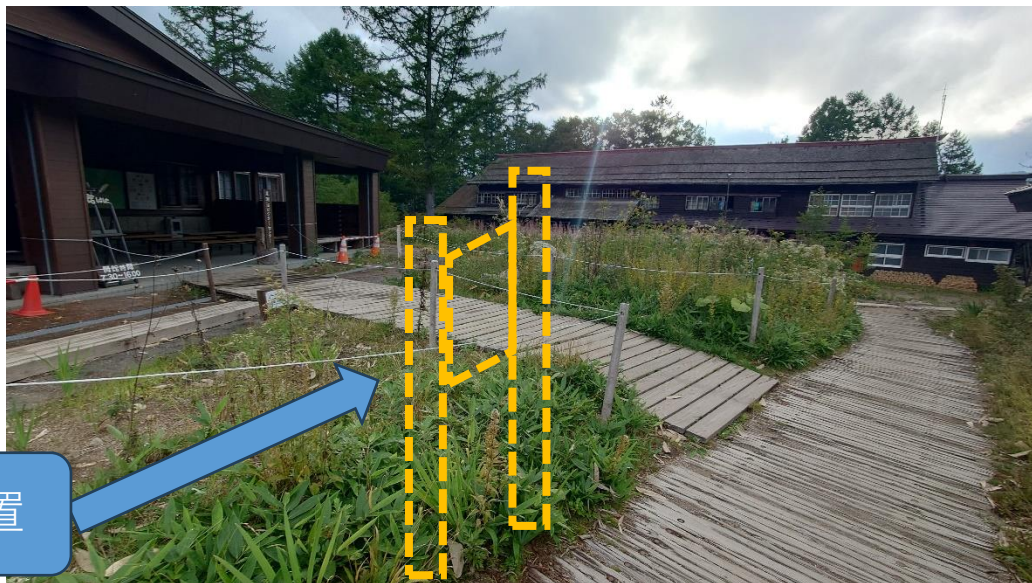
看板タイトル「尾瀬と会津沼田街道」

<主な記載内容>

伝統的な尾瀬の利用にもふれつつ、街道の全体的な概要をまとめる。

<設置方法>

尾瀬沼再整備計画も考慮し、土台をブロックとして、移動可能な看板とする。



新規の看板設置

↑ 写真撮影方向



【設置予定位置】

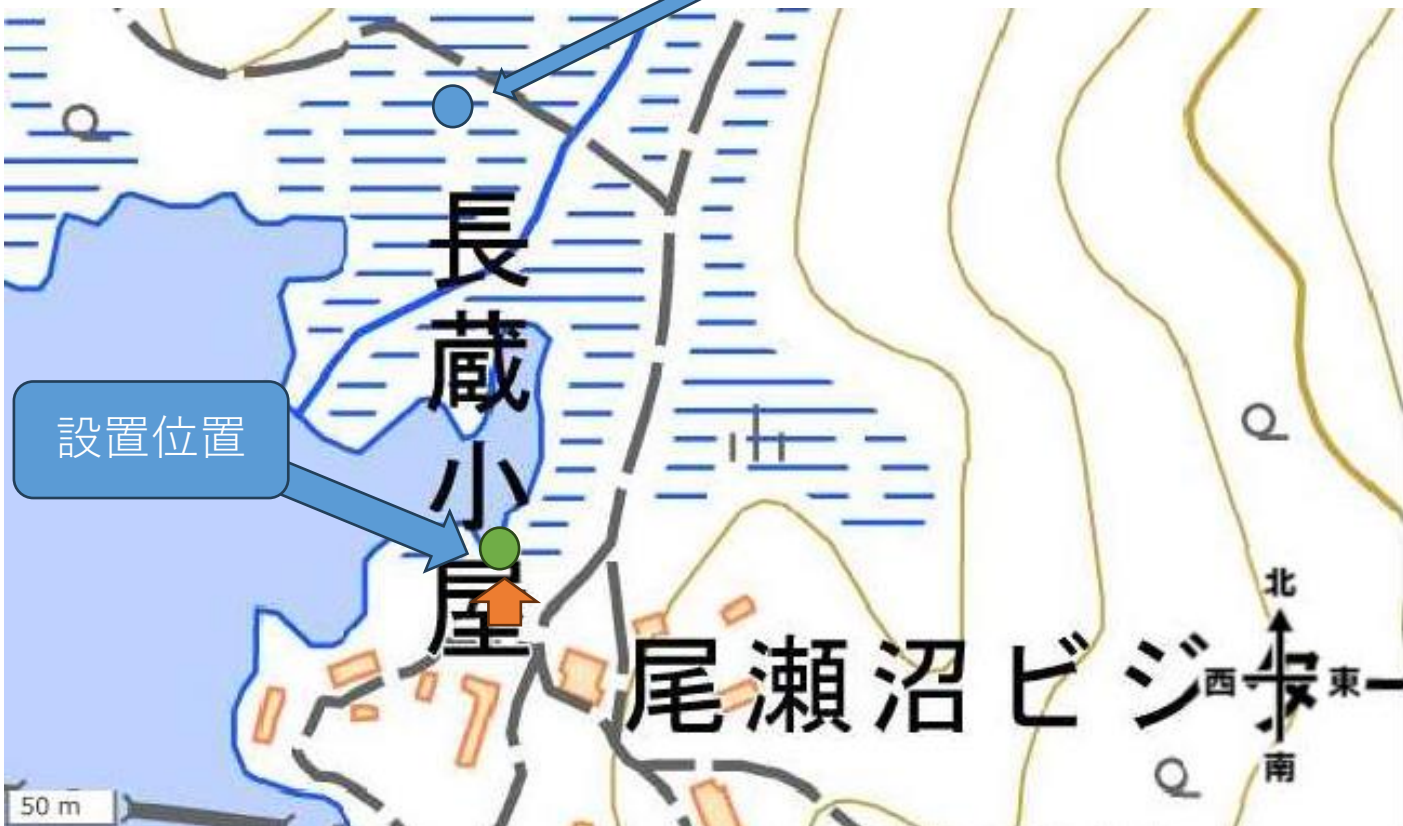
⑨第二テラス付近（三本カラマツ）
看板タイトル「尾瀬の伝説」

＜主な記載内容＞
尾瀬大納言に関する尾瀬塚
の歴史や牛騒動の背景。



↑ 写真撮影方向

三本カラマツ



【設置予定位置】

⑩大江湿原第2橋付近

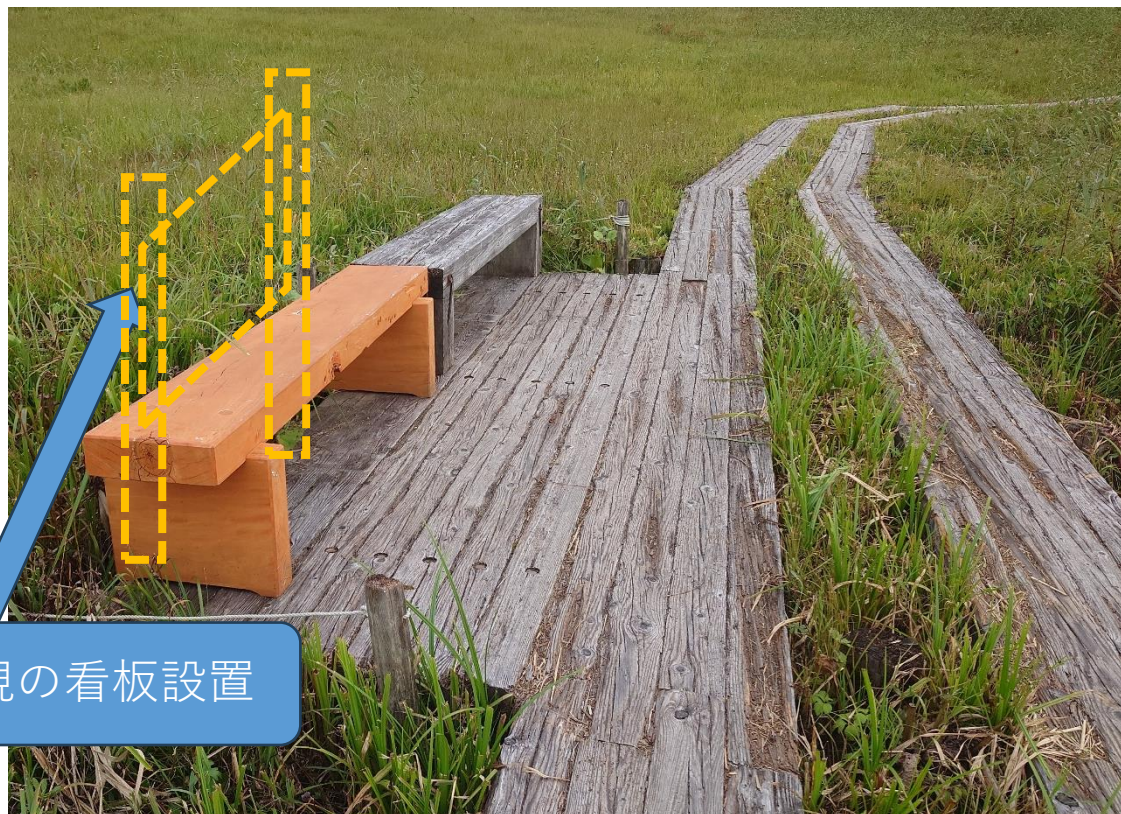
（尾瀬の動植物と人のかかわり）

看板タイトル

「尾瀬の動植物と人々のかかわり」

＜主な記載内容＞

植物研究（牧野富太郎氏等）
や昔からの魚の利用をまとめる。



↑ 写真撮影方向

【設置予定位置】

⑪会津戊辰戦争の土塁跡

タイトル「尾瀬と会津戊辰戦争」

<主な記載内容>

会津戊辰戦争そのものの説明と尾瀬との関連をまとめる。

<設置箇所>

小淵沢田代への分岐の休憩スペース



新規の看板設置

設置位置

土塁の方向を示す小型の板面を木道に設置検討

写真撮影方向

大江湿

土塁



【設置予定位置】

⑫沼山峠休憩スペース

看板タイトル「沼山峠」

<主な記載内容>

江戸時代の焼山としての展望地の歴史とオオシラビソ林の植生復活。



↑ 写真撮影方向



【設置予定位置】

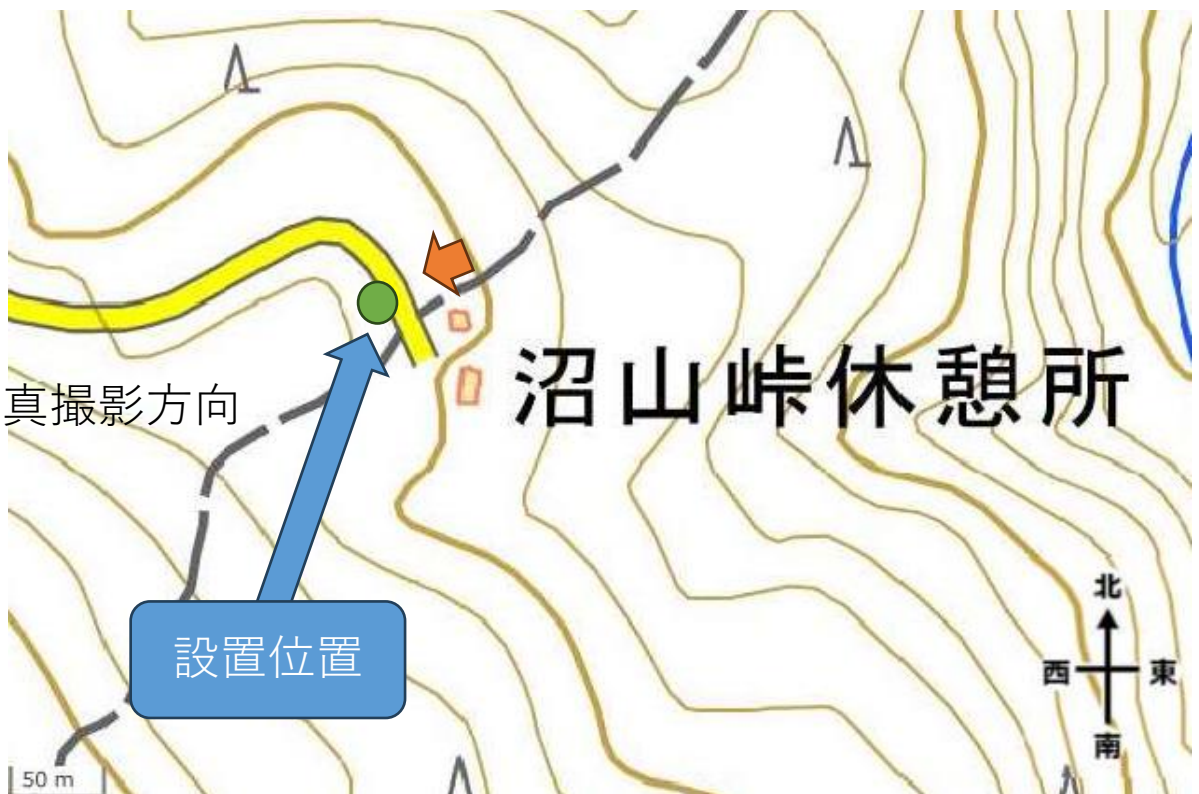
⑬沼山峠入口（街道の概要）
看板タイトル
「檜枝岐村と会津沼田街道」

<主な記載内容>

林業の木羽板生産や狩猟、漁業などの生業、檜枝岐村の名前の由来と街道の概要(道行沢や抱返ノ滝も含む)。



新規の看板設置



写真撮影方向

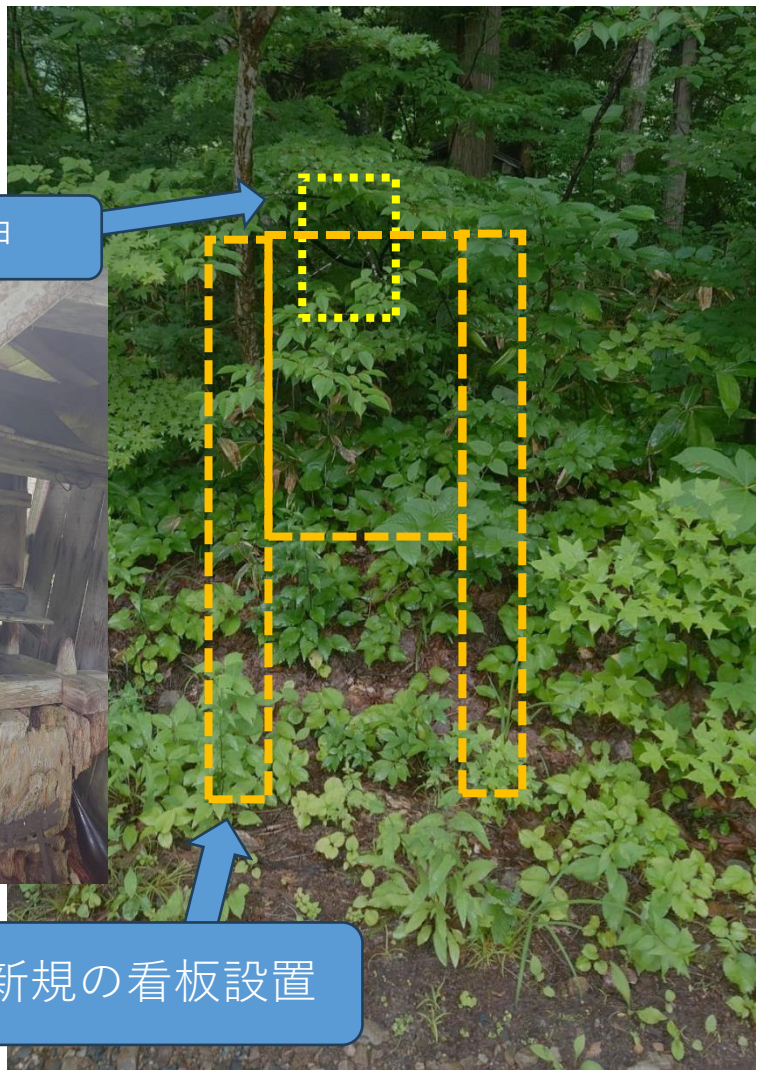
設置位置

沼山峠休憩所

【設置予定位置】

⑭七入山の神
看板タイトル
「山の神 七入」

<主な記載内容>
山の神と人々の関
わりや七入の名の
由来



↑ 写真撮影方向



尾瀬国立公園協議会設置要綱

（目的）

第1条 今後の尾瀬の保護と利用のあり方を取りまとめた「新・尾瀬ビジョン」の進行促進、進行管理及び実現を目指すとともに、参加型管理運営体制を構築するため、尾瀬国立公園協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（協議会の構成等）

第2条 協議会は、別表に掲げる関係機関及び関東地方環境事務所長が委嘱する委員をもって構成する。

2 協議会に議長を置く。

3 議長は、互選で選出するものとする。

（議長の職務）

第3条 議長は協議会の会務を掌理する。

2 議長に事故あるとき、又は議長が欠けたときは、議長があらかじめ指名した構成員が、その職務を代行する。

（招集）

第4条 協議会の招集は、関東地方環境事務所長が行う。

（議事の公開）

第5条 協議会の議事は公開とする。ただし、構成員の総意により非公開とすることができる。

（代理出席）

第6条 関係機関のうち行政機関及び山小屋組合は、やむを得ない事情により協議会に出席できない場合において、代理の者を指名し、出席させることができる。

（関係者の参加）

第7条 議長は、議事運営上必要があると判断した場合は、議事に関係する者を協議会に参加させることができる。

（事務局）

第8条 協議会の事務をおこなうため関東地方環境事務所に協議会事務局を置く。

（その他）

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、別に定める。

附 則 この要綱は、平成20年1月18日から施行する。
この要綱は、平成25年8月 6日から施行する。
この要綱は、平成29年3月 8日から施行する。
この要綱は、平成30年3月22日から施行する。
この要綱は、令和 5年1月30日から施行する。
この要綱は、令和 7年3月10日から施行する。

尾瀬国立公園協議会 構成員

関係機関

行政機関	
1	環境省関東地方環境事務所長
2	林野庁関東森林管理局計画保全部長
3	福島県生活環境部長
4	栃木県環境森林部長
5	群馬県環境森林部長
6	新潟県環境局長
7	檜枝岐村長
8	南会津町長
9	日光市長
10	片品村長
11	魚沼市長
財団	
12	公益財団法人尾瀬保護財団
土地所有者・管理者	
13	三井物産株式会社サステナビリティ 経営推進部グローバル環境室
14	東京電力リニューアブルパワー株式 会社水力部水利・尾瀬グループ
15	東京パワーテクノロジー株式会社
観光協会	
16	尾瀬檜枝岐温泉観光協会
17	南会津町観光物産協会館岩支部
18	一般社団法人日光市観光協会湯西川 ・川俣・奥鬼怒支部
19	一般社団法人片品村観光協会
20	一般社団法人魚沼市観光協会
山小屋組合	
21	尾瀬山小屋組合 組合長
22	尾瀬山小屋組合 副組合長
地元自然保護・環境教育・ガイドの団体	
23	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会
24	公益財団法人日本野鳥の会栃木県支 部
25	片品山岳ガイド協会
26	新潟県自然観察指導員の会
その他団体	
27	公益財団法人日本自然保護協会
28	尾瀬ガイド協会

委員

有識者	
29	加藤 峰夫(横浜国立大学名誉教授)
30	山本 清龍(東京大学大学院准教授)

※順不同